

*Noritake*

NORITAKE  
CORPORATE REPORT  
2021





## 私たちの価値創造

## ノリタケの概要

1. 企業理念	..... P03	5. ノリタケグループの概要	..... P13
2. 歴史に培われた強み	..... P05	6. 財務ハイライト	..... P15
3. ノリタケの価値創造	..... P07	7. 非財務ハイライト	..... P16
4. トップメッセージ	..... P09	8. 事業概況	..... P17

### 方針

ノリタケは経営計画や業績、また、社会、環境、コーポレート・ガバナンスへの取り組みを積極的に開示することで、ステークホルダーの皆さまに当社についてご理解いただき、コミュニケーションを図ることを目指し、本報告書を発行しています。

### 参考ガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)  
「サステナビリティレポートガイドライン(第4版)」  
経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」  
ISO(国際標準化機構)「ISO26000」

### 将来予測に関する記述について

本報告書に記載している将来予測に関する記述は、現在入手可能な情報や合理的であると判断する一定の前提に基づき、作成しておりますが、実際の業績はさまざまな重要な要因によって異なる結果になりうることをご承知おきください。



ノリタケの森

## ESGへの取り組み

## 財務・会社データ

9. ESGへの取り組み	.....	P27
10. マネジメント体制	.....	P29
11. コーポレート・ガバナンス	.....	P31
12. 社会とともに	.....	P37
13. 環境との調和	.....	P44

14. 財務サマリ	.....	P53
15. 会社概要	.....	P54

### 対象組織

ノリタケグループ  
一部ノリタケカンパニーリミテド単体の  
報告も含まれます。

### 対象期間

2020年度  
(2020年4月1日～2021年3月31日)  
一部2021年度の活動も含まれます。

### ウェブサイトでもご覧いただけます

本報告書に記載する内容やより詳細なIR  
情報については、当社のウェブサイトでも  
ご覧いただけます。



## 原点～ 創業者から受け継いだ想い



1914年に完成した  
日本初のディナーセット  
「セダン」のディナー皿

ノリタケの歴史は、19世紀後半、  
日本が長く続いた鎖国政策を解き、  
海外との交易を始めた頃にさかのぼります。  
創業者の森村市左衛門は  
日本の富が国外へ流出していくことに  
危機感を抱き、福沢諭吉に助言を求め、  
国利民福への想いから海外貿易を始めました。

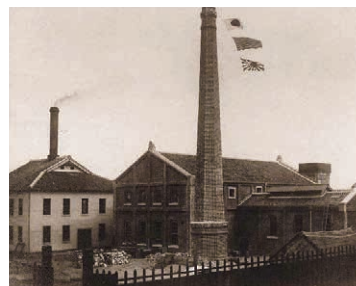
この事業を通して出会ったのが、  
ヨーロッパの白く美しい陶磁器でした。  
「白く美しい精緻な洋食器を日本で作りたい」  
森村市左衛門が抱いた想い、そこには事業を通して  
社会に貢献するという精神がありました。

1904年、現在の本社がある場所に  
近代的な製陶工場を建設し、  
本格的に洋食器製造を開始しました。  
ディナーセットに不可欠な25cmの皿を  
焼き上げるには困難を極めました  
経営陣、技術者が一丸となって研究を重ねた結果  
工場建設から10年、ついに  
日本初のディナーセット「セダン」が完成しました。

セダンの誕生によって、  
ノリタケは、世界の洋食器ブランドへと発展。  
その後、洋食器製造で培った技術を追求し、  
様々な分野へと事業を広げていきました。



創業者 森村市左衛門



1904年 創立当時の本社工場

「我方社ノ精神」

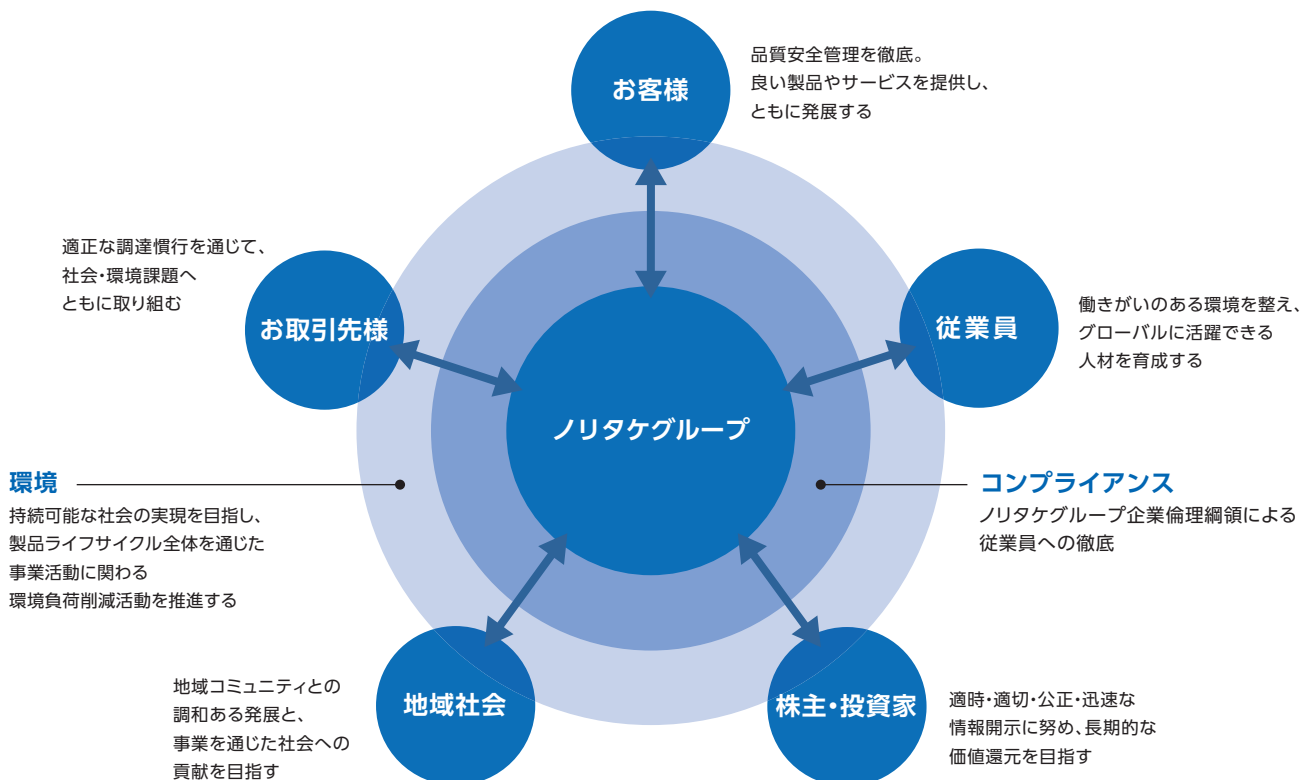
- 一、海外貿易ハ四海兄弟人權拡張共同  
幸福ヲ得テ永ク世界ノ平和ヲ保チ  
国家富強ノ元ヲ開キ将来国家ニ  
志ス者ノ執ルベキ事業ト決心シ創  
立シタル社中也
- 一、私利ヲ不樂一身ヲ犠牲トシ後世国  
民ノ發達スルヲ樂トスルヲ目的トス
- 一、至誠ヲ心トシ信実ヲ旨トシ約束ヲ  
違ヘサル事
- 一、ウソヲツカズ慢心 イカリ 驕リ  
怠り 私欲ヲ慎ム事
- 一、身ヲケガスナカレ朋友ハ肉身ヨリ  
大切ナリ 和合共力スル時ハ其功德  
金錢杯ノ及フ所ニアラズ終生ノ  
神靈ナリ
- 一、天ノ道ヲ信スヘシ天ハ人ノ為ニ万物  
ヲ經營シ寸時モ休ム事ナシ
- 右ノ條々ヲ鉄石心ヲ以勇氣昇天ノ如ク  
確守スベシ修養シテ怠ラサレハ心神ノ  
至誠天ニ通スベシ

「社是」


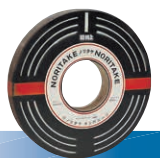




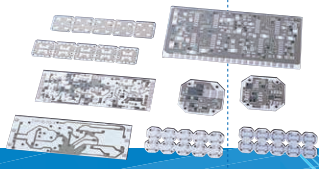






- 良品** お客様に心から喜んでもらえる製品を提供する
- 輸出** お客様を広く海外に求め、世界のお客様に喜んで  
もらえる事業を目指す
- 共栄** 会社や事業に関わるすべての人々が繁栄や幸福を  
分かち合う


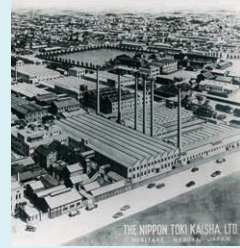



「企業倫理綱領」

- 【倫理規範】**
- ① 社は「良品・輸出・共栄」の実践
  - ② 法令・社会規範の遵守
  - ③ 従業員の人權尊重
  - ④ 地球環境の保全と、ゆたかで住みやすい  
地域社会への貢献
  - ⑤ 株主・顧客・地域社会などへの情報開示



# 時代とともに変化する社会環境とニーズの多様化に対応し、常に新たな価値を生み出してまいりました。

社会の出来事	1900～	1930～	1950～	1970～	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1904 日露戦争</li> <li>●1914～1918 第一次世界大戦</li> <li>●1920 戦後恐慌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1929～1933 世界恐慌</li> <li>●1931 満州事変(日中戦争始まる)</li> <li>●1939～1945 第二次世界大戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1950 朝鮮戦争</li> <li>●1951 サンフランシスコ平和条約</li> <li>●1955～1973 高度経済成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1971 ニクソン・ショック</li> <li>●1973 第一次石油危機</li> <li>●1985 プラザ合意</li> </ul>	
		<p><b>1939</b> 工業用研削砥石の本格的製造開始</p>	<p><b>1959</b> 超重研削用「ZZZ砥石」開発</p>	<p><b>1964</b> 研磨布紙の技術導入</p>	
					
	<p><b>1919</b> 水金の国産化成功</p>	<p><b>1919</b> 焼石膏の製造開始</p>	<p><b>1926</b> 磁器製造用転写紙の国産化成功</p>	<p><b>1967</b> 厚膜回路の印刷技術開発</p>	
					
				<p><b>1970</b> 不水溶性濾過装置「A-0フィルター」を発売</p>	<p><b>1973</b> スタティックミキサー(静止型混合器)の技術導入</p>
					
	<p><b>1914</b> 日本初のディナーセット完成</p>	<p><b>1932</b> 日本初のボーンチャイナ開発</p>	<p><b>1955</b> 加熱式自動ロクロ成形機の開発</p>	<p><b>1965</b> 耐熱強化磁器「プログレッションチャイナ」の開発</p>	
					

ノリタケの歩み					
	<p>1904年 日本陶器合名会社創立</p>	<p>1933～1939年 建物および設備の近代化</p>	<p>1947年 米国に販社設立</p>	<p>1957年 社是の制定</p>	<p>1972年 スリランカに 食器工場設立</p>

ノリタケグループは創業以来、洋食器製造で培った技術を様々な応用・発展させ、事業領域を4つの分野に拡大し、展開してきました。これからも私たちは、時代とともに変化する新たなニーズに応え、人々のより豊かな暮らしや社会に資する新たな価値を創造してまいります。

## 1990～

- 1986～1991 バブル景気
- 1991 ソビエト連邦の解体
- 1991～2002 失われた10年(平成不況)

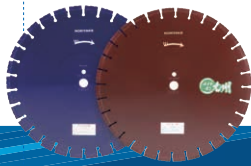
## 2000～

- 2001 アメリカ同時多発テロ
- 2008 リーマン・ショック
- 2011 東日本大震災

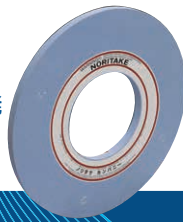
**1971**  
世界初のビトリファイド  
CBNホイール開発



**1972** ダイヤモンド  
工具の製造開始



**1990**  
セラミック  
砥粒砥石  
「CX砥石」開発



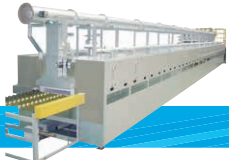
**1974**  
セラミックコアの  
技術導入



**1984**  
積層セラミック  
コンデンサ用  
電極ペーストを  
発売



**1975**  
ローラーハースキルン  
(RHK) を発売



**1988** シンカットマスター  
(超硬丸鋸切断機) の開発



**1998** PDP用大型パネル  
焼成炉を発売



**1974**  
業務用強化磁器  
「プリマデュラ」  
の開発



**2012**  
新磁器素材  
「プレミアムホワイト」  
の開発



### 工業機材事業

ものづくりに必要不可欠な「材料を削る・磨く・切る」という工程を世界トップクラスの技術により支える、国内最大の研削・研磨工具の総合メーカーです。グループにはオフセット砥石などの汎用砥石を扱う日本レドボンと広島研磨工業、研磨布紙を扱うノリタケコーテッドアブレーションなどが属しており、幅広い製品ラインナップで自動車・鉄鋼・ベアリング・航空機・造船・医療・半導体など様々な産業の発展に貢献しています。

### セラミック・マテリアル事業

原材料を砕く、混ぜる、成形する、絵柄をつける…洋食器の製造で培った技術が、幅広い分野で活躍する優れた材料や部品などを生み出しています。それらの製品が積層セラミックコンデンサなどの電子部品をはじめ、自動車や医療機器、表示デバイス、ジェットエンジンの部品の製造など、さまざまな産業を支えています。

### エンジニアリング事業

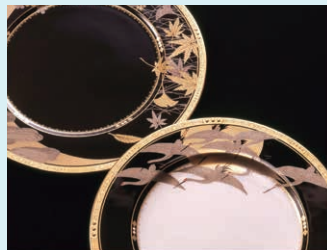
加熱、混合、濾過、切断の技術を核としたエンジニアリング装置を、自動車、電子部品、化学、医薬、食品などの様々な産業向けに提案し、ものづくりの現場の効率化、省エネに貢献しています。お客様のご要望に合わせた乾燥炉や焼成炉、混合攪拌装置、濾過装置、鋼材の切断機などの開発、設計を行っています。

### 食器事業

ノリタケの食器は100年以上にわたり、世界中で愛されてきました。ご家庭での普段使いやギフトのほか、ホテル、レストラン、機内食などの業務用として、美しく使いやすい食器を取り揃えています。これからも最高の品質と品格を備えた商品を提供することで、みなさまに心豊かな暮らしを提案していきます。



2001年  
ノリタケの森を開設



2004年 創立100周年  
(写真は周年記念品 四季彩舞曲)



2012年  
タイで超砥粒研削工具工場操業開始



2013年  
中国蘇州で砥石工場操業開始

# セラミックス技術を発展させ 社会に新たな価値を提供します

ノリタケは1904年の創立から115年の歴史があります。洋食器の製造を通じて培ったやきものの技術を応用、発展させ、様々なセラミックスの技術と製品を生み出してきました。今、それらは自動車、鉄鋼、電子部品から、食品、医薬に至るまで、幅広い分野で使用されています。

2020年度連結ベース

## INPUT

## 価値創造のプロセス

<b>財務資本</b>	
■ 総資産	<b>1,549</b> 億円
■ 現金及び預金	<b>123</b> 億円
<b>製造資本</b>	
■ 設備投資	<b>46</b> 億円
■ 固定資産	<b>898</b> 億円
<b>知的資本</b>	
■ 研究開発投資	<b>23</b> 億円
■ 特許保有件数	<b>611</b> 件
<b>人的資本</b>	
■ 従業員数	<b>5,029</b> 人
<b>社会関係資本</b>	
■ 国内連結子会社	<b>11</b> 社
■ 海外連結子会社	<b>12</b> 社





# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ノリタケグループは長年培ってきたセラミックスの技術を活かし、製品とサービスを通じて、持続可能な社会の実現に貢献していくために、様々な取り組みを進めています。

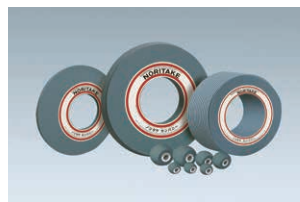


## 社会課題に応える多様な事業展開

### 工業機材事業

#### 研削砥石

自動車部品から注射針まで様々なものの製造工程で、材料を削る、磨くための「研削砥石」。加工の精度や効率などは世界トップクラスを誇ります。



### セラミック・マテリアル事業

#### 電子ペースト

スマホをはじめとした電子機器に搭載される電子部品の材料として使われる「電子ペースト」。安定した品質がお客様から高い評価を得ています。



#### セラミックコア

発電所や航空機のタービンの羽根を中空構造にするために使われる「セラミックコア」。形状や寸法の正確さは、高精度な鋳造物の生産に貢献します。



### エンジニアリング事業

#### 乾燥炉・焼成炉

食器の絵付け焼成から始まったノリタケの「乾燥炉・焼成炉」。正確な雰囲気調整と温度管理ができることが特長です。自動車や電子部品など幅広い分野で活躍しています。



### 食器事業

#### 食器

最高の品質と品格を備えた製品でこころ豊かな暮らしを提案しています。洋食器の製造で培った技術は様々なセラミックスの技術と製品に繋がっています。



## OUTPUT

### OUTPUT 01

売上高  
Net Sales

1,070 億円

### OUTPUT 02

経常利益

Profit Attributable to Owners of the Parent

44 億円

### OUTPUT 03

ROE  
Return on Equity

2.7 %

### OUTPUT 04

自己資本比率  
Capital Ratio

71.6 %

# TOP MESSAGE

---



代表取締役社長

加藤 博

# グループの真価が問われる年。 ノリタケを真に力強い企業にしていくため、 未来に向けて大きく舵を切ります。

## 2020年度の振り返りと事業概況

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済状況は、国内はもとより、世界的にも大変厳しい状況でした。また、感染症ばかりでなく、自然災害や気候変動によるリスク、通商問題をめぐる動向など、当社グループを取り巻く経営環境も変化しています。ノリタケグループは、このような環境の下、感染症の拡大防止に最大限の配慮をしながら事業を継続してきました。上期はコロナ禍の影響を大きく受けましたが、第3四半期終わり頃から、業績は回復基調に向かいました。

その結果、ノリタケグループの2020年度の売上高は前期比11.3%減少の1,070億円、営業利益は前期比39.2%減少の25億57百万円、経常利益は44億80百万円となりました。

各事業の概況は以下の通りです。

### ▶2020年度の概況

#### ■工業機材事業

国内は、主力分野である自動車・鉄鋼・ベアリング業界の大幅な生産調整の影響をうけ、期末に向けて回復基調であったものの、売上は減少しました。また、海外では中国の経済活動の再開や需要回復を見込んだ生産増加の兆しがみられ、欧米や東南アジアでも緩やかな回復が見られましたが、売上は減少しました。

#### ■セラミック・マテリアル事業

電子ペーストは、高速移動体通信用及びパソコン用電子部品の需要が堅調に推移したことにより、売上は大きく増加しました。電子部品材料は、通信インフラ用が堅調に推移したことに加え、自動車用も回復したことから、売上は増加しました。顧客からの需要減の影響を受けた厚膜回路基板やセラミック原料、蛍光表示管は、いずれも大きく減少しました。

#### ■エンジニアリング事業

主力の乾燥炉及び焼成炉は、コロナ禍における装置の据付工事の延期及び設備投資の抑制により、混合攪拌装置は、一般化学業界向けの受注が低調であったため、ともに

売上は減少しました。濾過装置は、ベアリング向けの大型装置の納入がありましたが、国内外とも需要が低調に推移し売上は減少しました。超硬丸鋸切断機は、国内外ともに自動車・工作機械用の低迷により大きく減少しました。

#### ■食器事業

国内は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンライン販売が増加したものの、エアライン、百貨店、ホテル・レストラン向けの販売がいずれも落ち込み、売上は大きく減少しました。

海外もオンライン販売が増加したものの、米国では、大型専門店が休業した影響を受け、その他の国・地域では、ホテル・レストラン及びエアライン向けがいずれも低迷し、減少となりました。

## 中期経営計画の2020年度の主な進捗

第11次中期経営計画の中間年度である2020年度も、「競争力のある新商品・新技術開発の促進」「海外生産拠点の増強と海外市場開拓の推進」「国内販売体制、製造体制の再整備」「ものづくり強化活動、環境活動、安全衛生活動、働き方改革と事業活動の一体化」の4つの基本戦略にグループ一丸となって取り組みました。これらは、当社グループの事業基盤を再構築し、高収益体質へ変革していくための戦略ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大で事業環境が大きく変わったため、最優先事項として「選択と集中の加速」を基本戦略に加えしました。

第11次中期経営計画 基本戦略の進捗と主な取り組みは次の通りです。

### 01 競争力のある 新商品・新技術開発の促進

商品化のスピードを高めるため、開発テーマの選択と集中を進めました。特に、セラミック・マテリアル事業とエンジニアリング事業では、自動車の電動化や通信の高速化で需要が増加している電子部品分野と

リチウムイオン電池分野に対して新商品開発と新用途開拓に注力しました。

### 02 海外生産拠点の増強と 海外市場開拓の推進

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、中国蘇州工場の増産やタイ工場の増設などの計画に遅延が生じたため計画の一部を見直しました。引き続き新型コロナウイルス感染症と世界経済の動向を注視し、対応していきます。

### 03 国内販売体制、 製造体制の再整備

工業機材事業において、営業効率の向上や物流コスト低減のため、営業拠点の統合・再編に取り組みました。また、セラミック・マテリアル事業では、国内工場で製造ラインを新設し、積層セラミックコンデンサなどの電子部品材料の生産能力を増強しました。

### 04 ものづくり強化活動、環境活動、 安全衛生活動、働き方改革と 事業活動の一体化

全社横断組織により、製造・技術部門においては、安全・品質・生産における日常管理と標準の仕組みづくり、営業・管理部門においては、業務効率の向上に、それぞれ主体的に取り組みました。コロナ禍においてはWeb会議を活用して、感染対策を取りながら、活動を推進しました。

以上の活動により、安全・品質・生産、環境のそれぞれの成果につながっています。

## 将来を見越した「選択と集中の加速」

食器事業は、創業当初から100年以上にわたり、今日まで継続している当社の祖業です。しかしながら、長い歴史故に時代に合わない側面もあり、2020年度は、開発・製造から販売までの各ステージを分析し、成長性と収益性を向上させるための事業体制の見直しを進めました。また市場の「選択と集中」の一環として、オンライン販売の強化を図るため2021年3月にオンラインショップをリニューアルしました。今後もオンラインでの販売をさらに強化していく予定です。

工業機材事業の市場の動向を見ますと、自動車のEV化など内外の市場環境の変化は加速しており、その中で研削・研磨製品の需要は将来減少が見込まれています。こうした時代の動きに対応していくため、各グループ会社が持つ特色を活かし、シナジーをさらに発揮していくことが重要だと考え、グループ会社を含む工業機材事業の組織を見直し、2021年度から汎用品とオーダーメイド品の二つの事業体制にすることとしました。これを製品群ごとの収益改善にも繋げていきます。

これらは、中期経営計画に最優先事項として追加した「選択と集中の加速」に基づくもので、他の事業においても、採算性の高い製品群に経営資源を集中させ、不採算の製品群に対しては有効な対策を実施していきます。

今後ノリタケグループは、将来を見据えてエネルギー・通信などの成長が見込める分野に向けて、技術と経営資源を集中させるとともに、M&Aなどの投資も行っていきます。さらに、2021年度は事業化推進委員会を活用し、開発テーマの速やかな事業化を推進します。

## ESG(環境、社会、企業統治)への 取り組み強化

企業の社会的責任に対する要求が一層高まっており、それに応えるべく第11次中期経営計画における経営課題の一つとして掲げたESG(環境、社会、企業統治)への取り組みを一層強化します。

ノリタケグループは「働くすべての人の安全と健康を守ることは、企業活動のすべてに優先される最も重要な基盤である」との認識の下、安全で快適な働きがいのある職場づくりに取り組んでいます。2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に対応し、在宅勤務制度を新設しました。

また、性別や年齢を問わず、すべての従業員にとって、仕事と生活・育児・介護などのバランスがとれる働きやすい職場環境の整備を進めています。2021年度からは有給休暇の取得推進のため、若年層の休暇付与日数を拡大しました。

これだけに留まらず、今後も、柔軟で多様な働き方を導入していきたいと考えています。

ガバナンス面では、2019年度に「指名・報酬委員会」を設立し、役員の人事および報酬決定についての合理性並びに透明性をさらに高めました。また、2020年度は役員トレーニングの充実、リスク管理体制の強化などに取り組み、コーポレート・ガバナンス体制の実効性向上に努めま

# 培ってきた技術力を基盤に、 時代が求める価値を創造し 世界に貢献し続ける企業を目指します。

した。今後もノリタケグループでは、体制の一層の充実を図り、企業価値を高めてまいります。

環境面では、地球環境の保全を重要な経営課題の一つと位置づけ、事業活動を通じて「持続可能な社会」の実現に貢献することを目指しています。事業のあらゆる側面で社会、環境への影響を捉えた課題の抽出を行っており、特に、環境への影響を抑えた製品の開発に力を注いでいます。

たとえば、リチウムイオン電池関連向け焼成炉では、新たにガス燃焼技術を融合することで大幅なエネルギーコストの削減を可能としました。

新たに開発した樹脂性ペーストは、200℃の耐熱性と柔軟性を両立させることで、自動車のEV化、ウェアラブルデバイスなど、人々のライフスタイルの進化を後押しすることが期待されています。また、半導体製造の最終加工で使用される環境にやさしい新工法に取り組んでいます。

これまで培ってきた経験を活かし、時代が求める環境価値や社会価値にあった技術を創出し、世界に貢献し続けます。

ノリタケグループは1904年、食器の製造から始まり、砥石や電子ペースト、電子部品材料などの多種多様な製品でさまざまな産業を支え、社会に貢献してきました。

電子ペースト、電子部品材料、乾燥炉・焼成炉などは安定して伸長していますが、祖業の食器や砥石など長い歴史を持つ事業は変革の時を迎えています。当グループの将来を見据え、これまで蓄積してきた技術を新たな成長分野に活かし、お客様の企業価値向上に繋がる製品・サービスを早期に提供していかなければなりません。さらに、SDGsへの取り組みを強化し、その実現に向けた製品の製造・開発も推進していきます。

そして、株主様、お客様、従業員、地域社会など、すべてのステークホルダーの皆さまの声を真摯にお聞きし、適切に、迅速に対応していくことを私たちの責任と使命とし、これからも社会から必要とされる企業であり続けたいと思います。

引き続き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## ステークホルダーの皆さまへの メッセージ

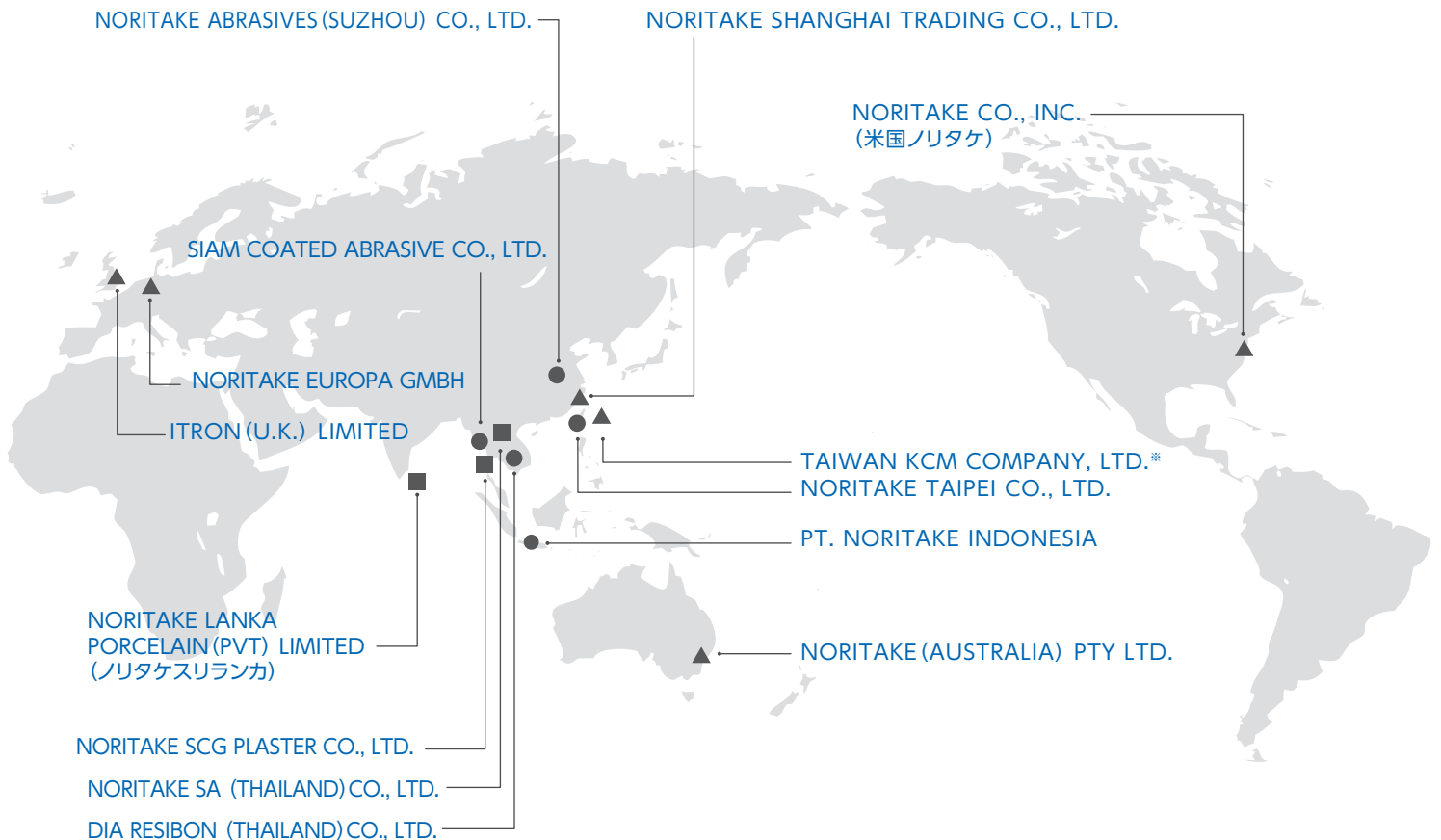
ノリタケグループは、株主の皆さまへの利益還元を重要な経営方針として位置付け、長期的、安定的な配当を継続することを基本とし、業績、財務状況、今後の事業展開を総合的に判断して成果の配分を行うこととしています。2020年度の年間配当につきましては、業績および今後の事業環境、業績見通しを総合的に勘案した結果、1株につき60円とさせていただきます。

世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の経済への影響は長期化が予想されています。そのような中で、ノリタケグループが提供すべき価値は何か、2021年度は私たちの真価が問われる年であると認識しています。今ここで、ノリタケをより力強い企業にしていけるべく、大きく舵を切っていきます。

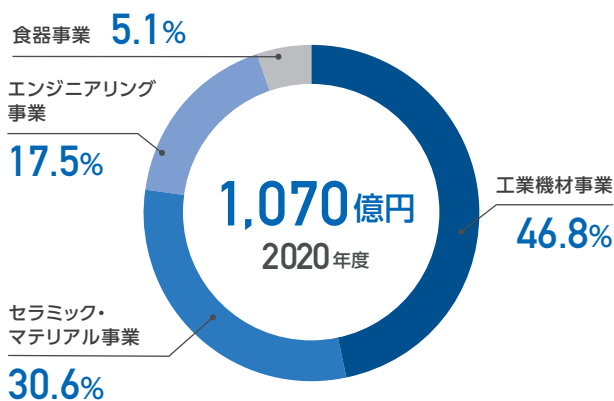


## 世界に広がるノリタケグループ

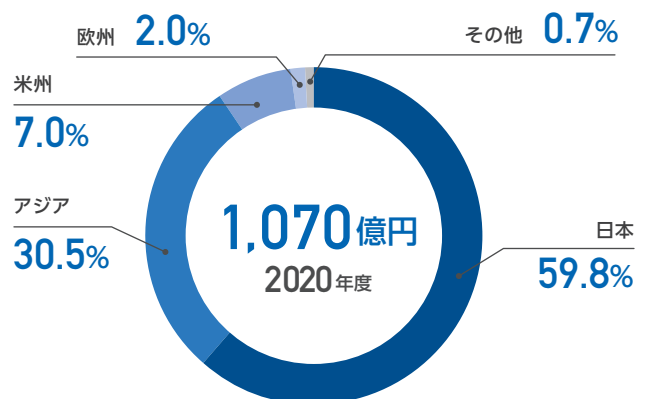
ノリタケカンパニーは、ノリタケグループとして国内と海外あわせて子会社25社、関連会社7社を擁しています。これらのグループ会社でも、適切な労働環境や制度の整備、働く人の人権の保護を図るため、調査を行い、各社の事情やその国の法律に基づき、制度や活動を展開していきます。



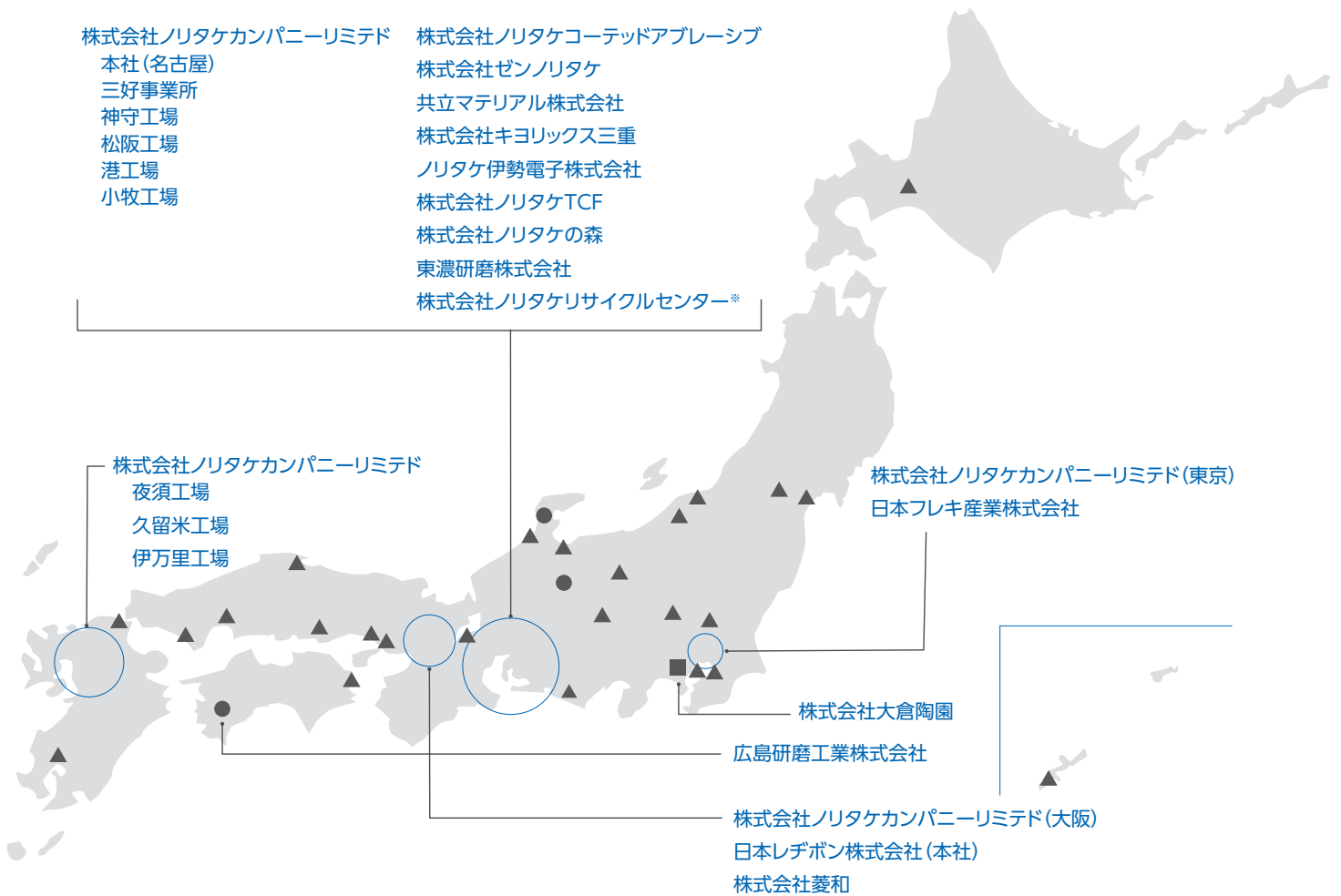
### 事業別 売上高構成比



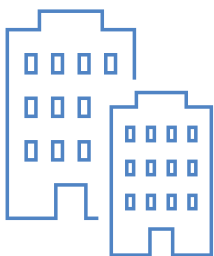
### エリア別 売上高構成比



- 工場 Manufacturing Bases
- ▲ 営業拠点 Sales Bases
- 工場／営業拠点 Manufacturing Bases/Sales Bases
- ※は非連結子会社



(2021年3月31日現在)



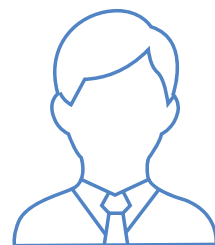
連結子会社数

**23**社



海外の拠点

**9**ヶ国・地域



従業員数

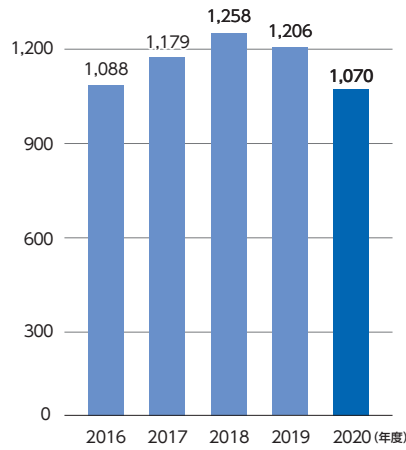
**5,029**人

正規従業員のみ

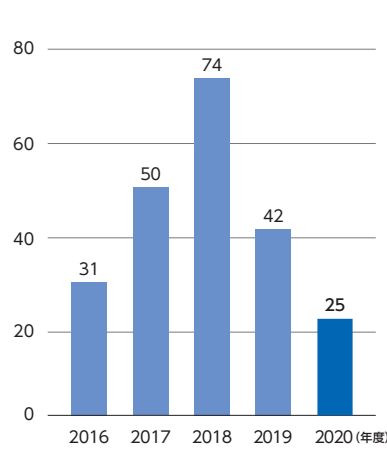
## 6. 財務ハイライト

### 財務ハイライト 2020年度連結ベース

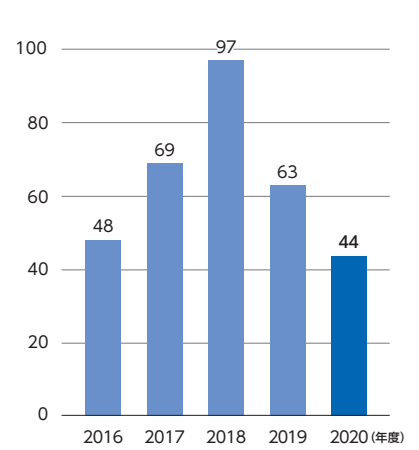
売上高 (億円)



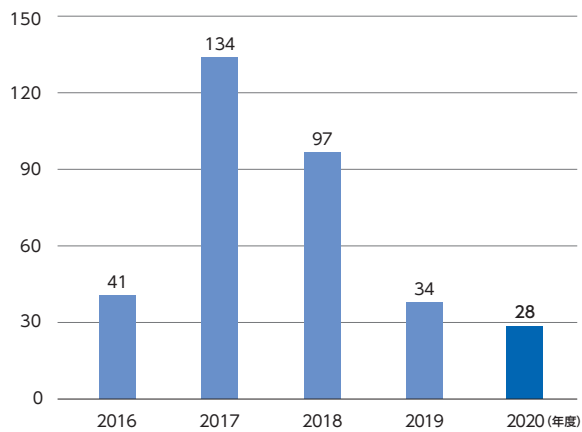
営業利益 (億円)



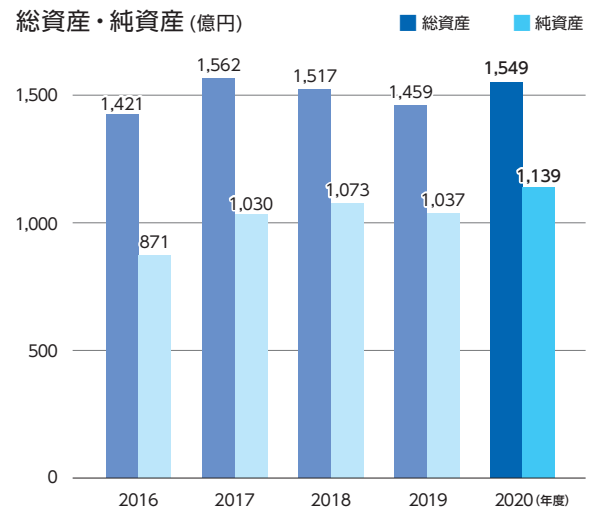
経常利益 (億円)



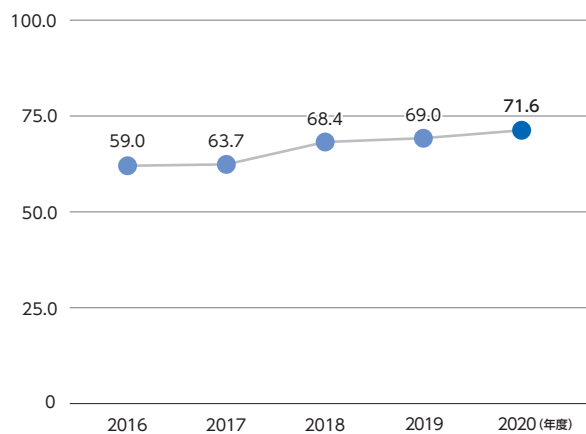
当期純利益 (億円)



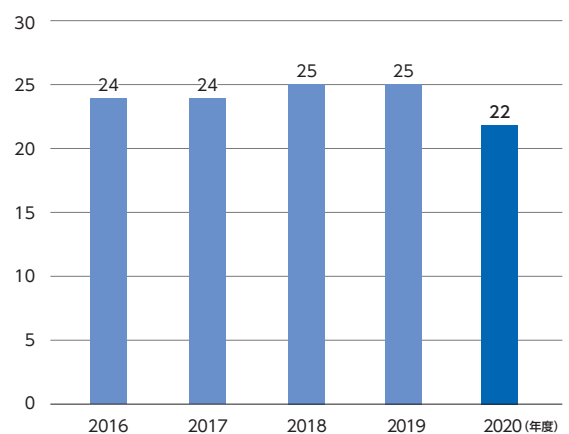
総資産・純資産 (億円)



自己資本比率 (%)



研究開発費 (億円)

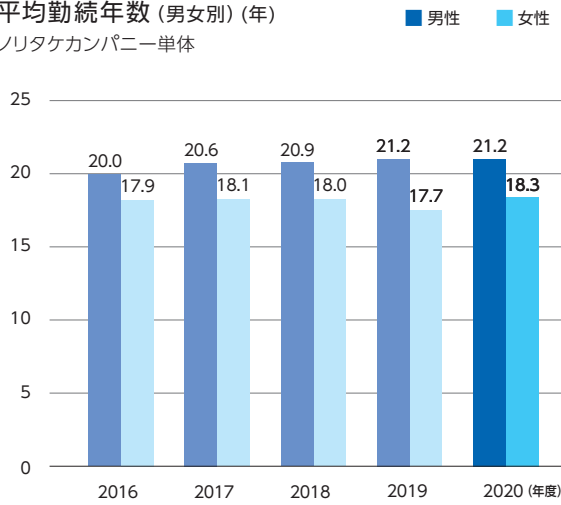




## 非財務ハイライト

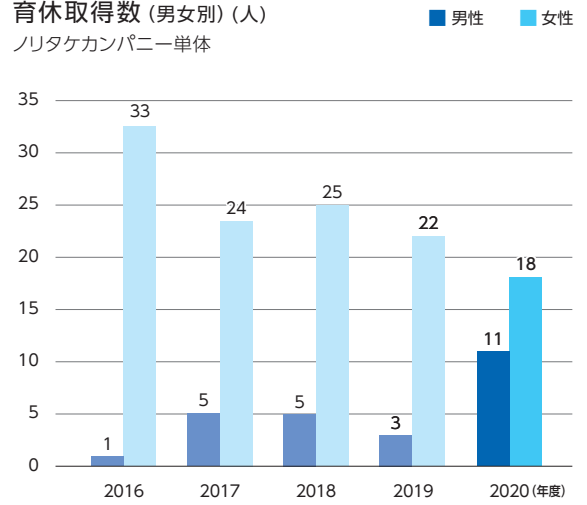
平均勤続年数(男女別)(年)

ノリタケカンパニー単体



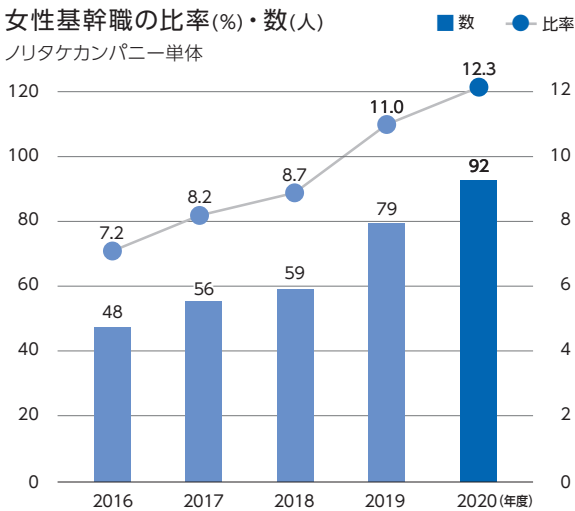
育休取得数(男女別)(人)

ノリタケカンパニー単体



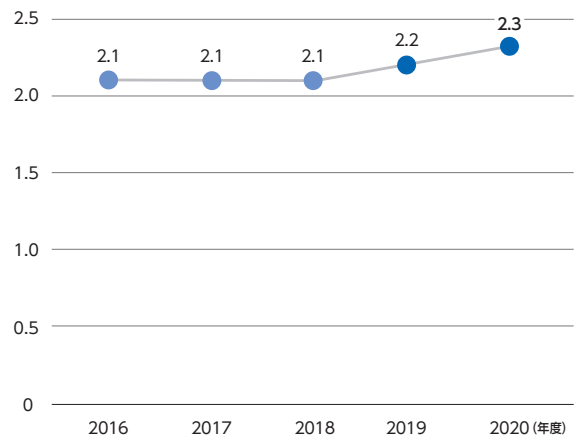
女性基幹職の比率(%・数(人))

ノリタケカンパニー単体



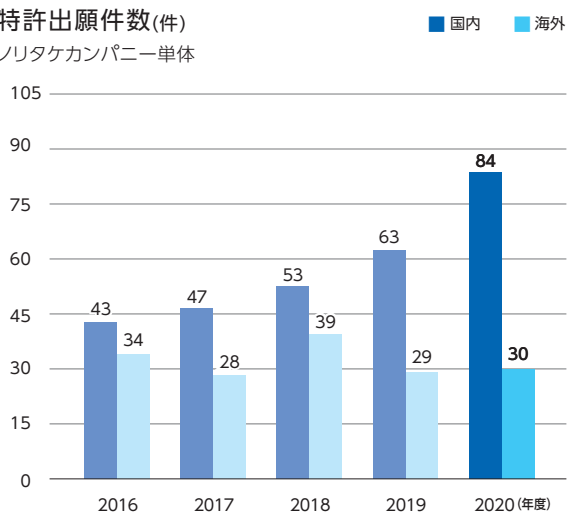
障がい者雇用率(%)

ノリタケカンパニー単体



特許出願件数(件)

ノリタケカンパニー単体



事業別従業員数(人)

連結

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
工業機材	2,613	2,561	2,620	2,617	2,566
セラミック・ マテリアル	934	919	887	895	875
エンジニアリング	235	238	241	245	254
食器	1,093	1,082	1,135	1,141	1,085
管理	222	212	208	222	249
合計	5,097	5,012	5,091	5,120	5,029

# 工業機材事業

Industrial Products Business

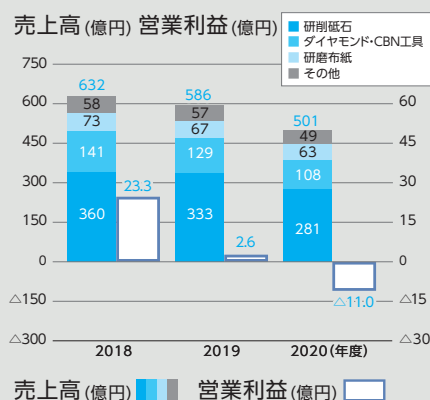
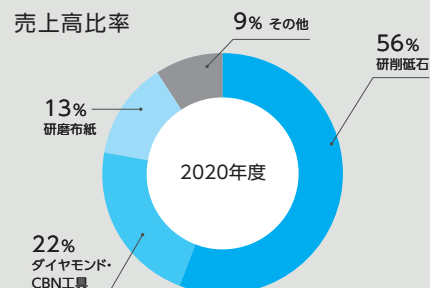
## 主要製品

- 研削砥石
- CBN工具
- ドレッサ
- ダイヤモンド工具
- 研磨布紙
- 研削・研磨関連商品 (研削油剤等)

ものづくりに必要不可欠な「材料を削る・磨く・切る」という工程を世界トップクラスの技術により支える、国内最大の研削・研磨工具の総合メーカーです。グループにはオフセット砥石などの汎用砥石を扱う日本レヂボンと広島研磨工業、研磨布紙を扱うノリタケコーテッドアブレイブなどが属しており、幅広い製品ラインナップで自動車・鉄鋼・ベアリング・航空機・造船・医療・半導体など様々な産業の発展に貢献しています。



工業機材事業本部長  
東山 明



## 2020年度の業績

主力である国内の自動車、鉄鋼、ベアリング市場において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う大幅な生産調整が行われ、その影響を大きく受けました。期末に向けて回復基調でしたが、通期で売上が減少しました。海外では、中国で経済活動の再開や需要回復を見込んだ生産増加の兆し

が、欧米や東南アジアでは緩やかな回復が見られたものの、通期で売上が大きく減少しました。オフセット砥石などの汎用砥石も国内外ともに減少しました。これらの結果、工業機材事業の売上高は、500億94百万円(前期比14.5%減少)、10億98百万円の営業損失となりました。

## 中期経営計画の進捗

2020年度のお客様の大幅な生産調整や市況の変化に加え、中長期の市場動向を見据えたうえで、当事業では、製品群ごとの製造から販売までの収支に基づいた各種施策により、収益性の向上を加速しています。国内では、グループ会社も含めた拠点の整備を順次進めていますが、合わせて、汎用品とオーダーメイド品という製品の特性から見た事業の

見直し、収益改善にも取り組んでいます。一方、海外では、中国・タイの製造ライン立ち上げの対応を一部リモートで行うことなどにより、海外生産拠点の増強を進め、グローバルな事業体制の強化を図っています。



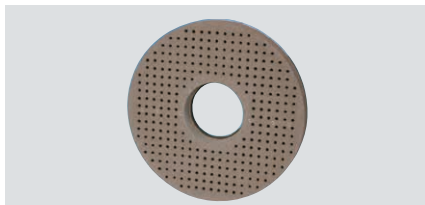
歯車研削用ビット砥石“ギャエース”



ビットCBN“メガライフホイール”



ダイヤモンドベルト“アルタ”



平面研削用砥石“フラッディ”



超硬主溝研削用メタルホイール“MDLホイール”



オフセット砥石

## 中長期の事業ビジョン

次の時代に向け、事業の地盤をしっかりと固め、グループ会社各社とのシナジーを最大限に発揮する取り組みを進めています。また、競争力のある新商品の開発により新分野や拡大分野での市場を獲得することが、中長期的な事業拡大において最も重要な課題であると考えています。

具体的には、2050年カーボンニュートラルの実現という政府方針に対し、生産工程で排出されるCO<sub>2</sub>削減へお客様の関心が高まっていることから、生産性の向上によりエネルギー低減を達成し、CO<sub>2</sub>削減につながる商品の開発に力を注いでいます。これは当社が掲げる第11次中期経営計画の中にあるESG(環境、社会、企業統治)への取り組みの強化に即したものであります。

特に近年では自動車のEV化が各国で加速していますが、このEV化では燃料が電池へ変わるだけでなく、自動車の軽量化による燃費向上や駆動部品の高精度加工によるエネルギーロス低減などを含めて、CO<sub>2</sub>削減を追求していくこととなります。これまで主に内燃機関に関わる研削・研磨工具を提供してきました

が、このEV化の流れに遅れることなく、お客様が生産される部品の特性・形状に求められる新たな商品を提供していきます。

例えば、複数の研削・研磨工程で使用される異なる種類の砥石を一体化することで、駆動部品の加工精度が向上し、エネルギーロスの低減につながる砥石を開発しています。この砥石を使用することで、作業工程を短縮することができ、生産効率の大幅な向上を実現します。この開発は長きに渡って各種砥石を開発・製造し、基礎・要素技術を培ってきた当社だから可能であるものと確信しています。

これまでは、自動車、鉄鋼、ベアリングなどの金属素材に対する研削技術を中心としてきましたが、今後は、市場の拡大が見込まれる半導体や通信分野でも重点的に開発を進めます。更なる成長につなげるために、一人ひとりのモチベーションが向上し、能力が最大限発揮できる環境を整備します。そして、ノリタケがこの80年余りにわたって蓄積してきた技術と経験を最大限に生かし、それらのノウハウを後世へ残し、新たな時代に向けた人材育成を行っていきます。

## TOPICS

### 海外生産の拡大 ～中国・タイで設備増強～

中国の則武磨科磨具(蘇州)有限公司の新ライン稼働は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により遅れが生じていましたが、7月に稼働開始の予定です。このラインでは世界で需要が拡大している鉄鋼市場向け大型砥石を製造し、中国市場のみならず欧米・インドなどの市場への供給を計画しています。また、タイのNORITAKE SA(THAILAND) CO., LTD.の超砥粒工具(ビットCBN)を製造するラインを増強し、2021年5月より現地で一貫生産を開始しました。これによりビットCBN製品は日本・北米・タイの3拠点で一貫生産が可能になりました。グローバルに生産を展開するお客様

に向けて、今後も現地サービス体制の強化を進めます。



NORITAKE SA (THAILAND) CO., LTD.

# セラミック・マテリアル事業

Ceramics & Materials Business

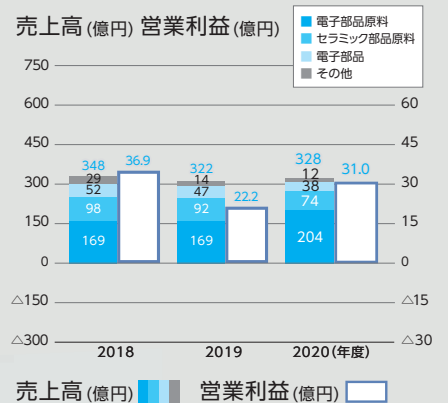
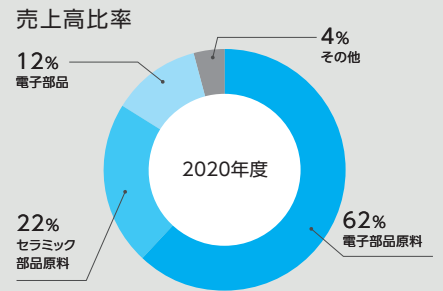
## 主要製品

- 電子部品原料  
電子ペースト  
転写紙  
電子部品材料
- セラミック部品原料  
石膏  
セラミック原料
- 電子部品  
厚膜回路基板  
蛍光表示管および同モジュール
- その他  
触媒担体  
セラミックコア

原材料を砕く、混ぜる、成形する、絵柄をつける…洋食器の製造で培った技術が、幅広い分野で活躍する優れた材料や部品などを生み出しています。それらの製品が積層セラミックコンデンサなどの電子部品をはじめ、自動車や医療機器、表示デバイス、ジェットエンジンの部品の製造など、さまざまな産業を支えています。



セラミック・マテリアル  
事業本部長  
寄田 浩



## 2020年度の業績

電子ペーストは、高速移動体通信用およびパソコン用電子部品の需要が堅調に推移したことにより、売上が大きく増加しました。電子部品材料は、通信インフラ用が堅調に推移したことに加え、自動車用も回復し、売上増となりました。厚膜回路基板は、顧客からの需要減の影響を受け、売上が大きく減少し、石

膏、触媒担体も国内外ともに減少しました。セラミックコアは、顧客の生産調整の影響を受け、減少し、セラミック原料、蛍光表示管も大きく減少しました。これらの結果、セラミック・マテリアル事業の売上高は327億80百万円(前期比1.7%増加)、営業利益は30億99百万円(前期比39.7%増加)となりました。

## 中期経営計画の進捗

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、製品によって計画の進捗に差異が生じる1年となりました。在宅勤務の増加や5Gの普及に伴う基地局増設などにより、電子機器に使用される積層セラミックコンデンサ(MLCC)向け材料が好調で、電子ペーストは新工場の生産能力増強、製品開発の推進によるシェア拡大、開発テーマの

選択と集中によるスピードアップを行いました。電子部品材料もMLCC向けの生産能力の増強と拡販活動を行いました。一方、需要減、生産調整などの影響を受けた製品もあり、触媒担体では性能改良、セラミックコアでは生産性向上に着手しました。電子表示・厚膜回路基板などは、事業体制の見直しを行っています。



転写紙



電子部品用セラミック原料



石膏製品



電極用ペースト



蛍光表示管



セラミックコア

## 中長期の事業ビジョン

社会環境の急激な変化の中で当事業は、セラミックスや貴金属など無機材料の粉碎や分散などの高度な技術を核に、つねに新たな価値を提供できる強みを持っており、情報通信・自動車・建設資材などの幅広い市場にトップクラスの製品を提供し続けています。コロナ禍におけるリモートワークの増加などによる、パソコンや携帯端末、通信機器の需要の急増に応え、必要とされる電子部品材料を供給し続けました。

先端分野でお客様や社会の要求に応え続けることが、当事業の成長の鍵となります。そのためには、5年、10年先を見据えた組織改革が必要です。これまで組織改革は行ってきましたが、問題が顕在化した組織を見直すだけで、目立った問題がない組織については現状維持としてきました。しかし、事業環境の変化が速い現在では、悪いところも良いところも含めて、新しい発想

と方法で変革していく必要があります。そうしなければ、当事業はより加速する社会の変化に取り残されてしまいます。開発・製造・販売のあらゆる業務や仕組みを見直し、新しい挑戦を続けていきます。一部の優秀な社員が変革を牽引するのではなく、全社員が少しずつでも確実に新たな挑戦に取り組むことを目指しています。

今後は、情報通信技術の高度化に伴うデジタルトランスフォーメーション(DX)や地球環境の保護を視野に入れたカーボンニュートラルなどに関連する新製品や新たな事業分野が次々と立ち上がっていくことが予想されます。その中で私たちは、ノリタケの製品を選んでいただくことで様々なメリットを享受でき、環境貢献もできる、そのような新製品や新しい価値を次々と生み出していきたいと考えています。

## TOPICS

### セラミックコアの生産ライン増強

ガスタービンやジェットエンジンの動翼・静翼の casting プロセスに使用される精密 casting 用のセラミックコアは、高温下でも安定して使用できる中空部を形作るための消耗品です。消耗品でありながらセラミックコアはガスタービンやジェットエンジンの高効率化に大きく寄与します。

コロナ禍で停滞しているエネルギー産業と航空機産業に左右されるセラミックコア市場ですが、今後の増産を見据えて、松阪工場にセラミックコアの生産ラインを増設しました。今回の増設にあたり、既存の三好工場の生産ラインの課題を事前に抽出し、ものづくり活動で培ったノウハウを活用してその課題を解決しました。また生産拠点を2カ所に分けることでBCPにも対応しました。



松阪工場

# エンジニアリング事業

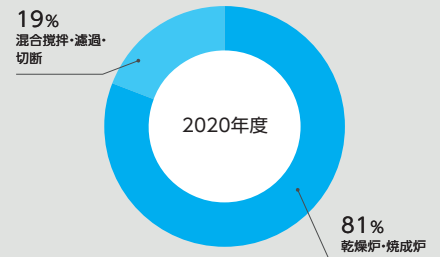
Engineering Business

## 主要製品

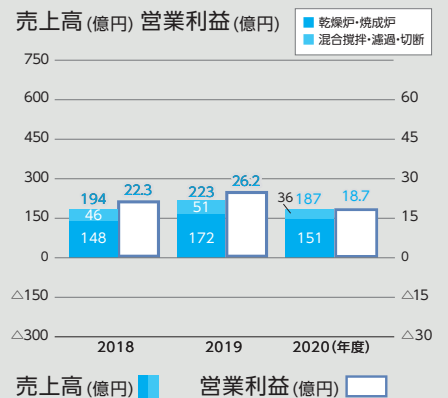
- 高効率焼成炉 ローラーハースキルン
- 混合攪拌装置 (スタティックミキサー等)
- 超硬丸鋸切断機
- 遠赤外線乾燥炉
- クーラント濾過装置

加熱、混合、濾過、切断の技術を核としたエンジニアリング装置を、自動車、電子部品、化学、医薬、食品などの様々な産業向けに提案し、ものづくりの現場の効率化、省エネに貢献しています。お客様のご要望に合わせた乾燥炉や焼成炉、混合攪拌装置、濾過装置、鋼材の切断機などの開発、設計を行っています。

## 売上高比率



エンジニアリング事業部長  
前田 智朗



## 2020年度の業績

主力の乾燥炉や焼成炉は、コロナ禍における装置据え付け工事の延期および設備投資の抑制により、主要分野向けの売上が減少しました。混合攪拌装置は、食品分野向けは堅調でしたが、化学分野向けが低調に推移しました。濾過装置は、国内では機械部品分野向け大型装置の納入がありました。海外

の需要が低調に推移し、売上減少となりました。超硬丸鋸切断機は、国内外ともに自動車分野、工作機械分野の低迷により大きく減少しました。これらの結果、エンジニアリング事業の売上高は、187億20百万円(前期比16.2%減少)、営業利益は18億71百万円(前期比28.5%減少)となりました。

## 中期経営計画の進捗

エンジニアリング事業では、第11次中期経営計画の下、「競争力のある新商品・新技術開発の促進」に取り組んできました。設備の納品には据え付け工事を行う必要がありますが、2020年度前半は海外渡航規制の発令により現地工事ができない事態になりました。また、新商品や新市場の開拓においてもお客様のもとへ出向くことができなかつた時期が長期化し、開発、提案活動に遅れが生じました。

事業を上昇気流に戻すべく選択と集中を進め、新商品の開発や既存商品の高付加価値化に取り組んでいます。乾燥炉や焼成炉は、好調が続く電池材料分野および電子部品分野への拡販に注力するほか、自動車分野での新商品開発を推進しています。混合攪拌装置は医薬・化粧品分野へ、濾過装置は自動車部品分野での拡販を行います。超硬丸鋸切断機は、新素材用の開発と建築材料分野に注力していきます。



スタティックミキサー



ローラーハースキルン



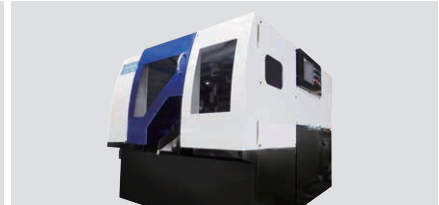
クーラント濾過装置



食品殺菌装置



ロータリーキルン



超硬丸鋸切断機 (シンカットマスター)

## 中長期の事業ビジョン

エンジニアリング事業では、お客様の用途や要望に沿った機械・装置を提供し、様々な産業のものづくりを支えています。焼成炉は、リチウムイオン電池、5G関連材料分野が好調に伸長しており、重点的に技術開発を行っています。愛知県小牧市にある当事業のヒートテクノテストセンターは、お客様から「こういう製品を作りたい」という相談を受け、最適なテスト機を選定し、温度条件や搬送条件などを変えながら検証ができる施設で、こうした開発体制が急速に進化する電子部分野の技術力を支えてきました。現在も、焼成効率を上げたリチウムイオン電池材料用焼成炉の検証テストを行っています。また、電子部品では積層セラミックコンデンサ (MLCC) の本焼成工程の設備を提供してきましたが、この前後に、脱バイと再酸化という二つの焼成工程があります。この脱バイ、本焼成、再酸化の一連の工程を1台で完遂するシステムを新たに開発中で、すでに検証段階に入っています。さらに、材料不足の懸念などを踏まえ、新たな電池材料への対応も準備

しており、今後は、当社にない技術を持った外部機関とも連携し研究開発を積極的に行っていく考えです。

一方、混合攪拌装置については、これまでバッチ処理で行われていたラインを連続的に切り替えることができるフロー合成システムが完成し、主に医薬品、化粧品分野に拡販を行っていきます。これは、昨年開発した超小型のスタティックミキサーを活用し、システム化したものです。他に、微細な泡を発生させるファインバブル発生器も用途開拓を進めています。濾過装置の主力アイテムの一つが歯車研削装置向けです。現在、歯車研削では油性クーラントが主流ですが、当社では環境にやさしい水溶性クーラントに対応した濾過装置を拡販しています。

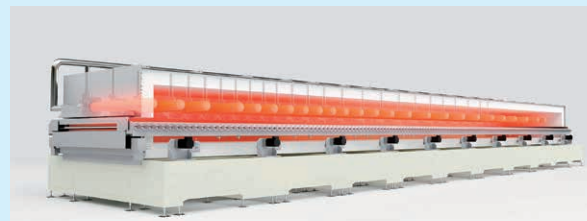
こういった施策を安定して継続していくためには各産業の製造現場における知見を備えた専門人材が不可欠です。今後も人材育成に一層力をいれていきます。当事業は、つねに未来を見据え、描いたビジョンに向けて、邁進していきます。

### TOPICS

#### 世界初、ガス燃焼式リチウムイオン電池電極材用連続焼成炉を開発

ノリタケは、特殊セラミックラジアントチューブバーナを採用した世界初のガス燃焼式リチウムイオン電池電極材用連続焼成炉を開発し、2020年8月より販売を開始しました。この製品は、ノリタケの焼成炉技術と東京ガス・TGESのガス燃焼技術の融合により生まれ、最大40%のエネルギーコスト削減を実現する高効率な加熱装置です。近年需要が高まるリチウムイオン電池電極材の製造工程で、求められる高温(1,000℃以上)での安定した熱処理を行います。ガス燃焼式

による高温焼成の課題を3社の技術を合わせることで解決し、製品化を実現しました。



ガス燃焼式リチウムイオン電池電極材用連続焼成炉 (C-SERT-RHK)

# 食器事業

Tabletop Business

## 主要製品

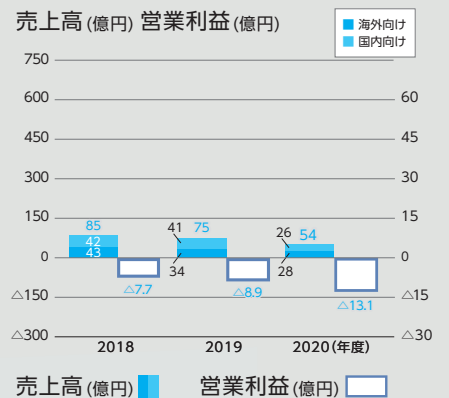
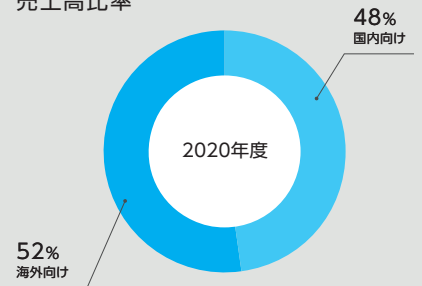
- 陶磁器食器
- 装飾・美術品等
- その他食器関連商品

ノリタケの食器は100年以上にわたり、世界中で愛されてきました。ご家庭での普段使いやギフトのほか、ホテル、レストラン、機内食などの業務用として、美しく使いやすい食器を取り揃えています。これからも最高の品質と品格を備えた商品を提供することで、みなさまに心豊かな暮らしを提案していきます。



食器事業部長  
水口 宗成

## 売上高比率



## 2020年度の業績

国内市場は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンライン販売が増加したものの、エアライン、百貨店、ホテル・レストラン向けの販売がいずれも落ち込み、売上は大きく減少しました。海外市場もオンライン販売が増加したものの、米国では大型専門店が休業した影響を受け減少し、

その他の国・地域では、ホテル・レストランおよびエアライン向けがいずれも低迷し、海外全体で減少となりました。

これらの結果、食器事業の売上高は、54億4百万円(前期比27.6%減少)、13億14百万円の営業損失となりました。

## 中期経営計画の進捗

食器事業では、第11次中期経営計画の下、事業の立て直しを図り、縮小する市場においても収益が確保できる体制の確立に取り組んできました。コロナ禍となった2020年度は、事業立て直しの戦略見直し、修正に力を注ぎました。国内では販売・流通の見直し、選択と集中による高効率化を推進するとともに新たな市場・販路の開拓を行いました。既存の直営店3店舗を閉店し、新しいスタイ

ルの店舗ノリタケスクエアプラス(名古屋三越栄店)をオープンしたほか、アウトレットモールなどで期間限定出店を行いました。さらに、2021年秋にはイオンモールも当社に隣接して開業する予定で、人流が大きく変わることが予想されます。それに対応するため、ノリタケスクエア名古屋をリニューアルオープンします。また、アクセスが増えているノリタケ公式オンラインショップは、リニュー





ヨシノ



ローザロッサ



オマーージュ コレクション



オリッジ



カラーテックス



メゾンコレクション(キルティング ピンク)

アルによって利便性の向上を図りました。

海外では、米国市場で、コロナ禍による小売のオンライン化がさらに拡大しているため、オンライン販売に引き続き力を入れ、売上拡大、収益改善に取り組んでいます。その他、中国、

インド、オセアニアでは、販売体制の見直しと収益改善に取り組んでおり、特にオーストラリアではオンライン販売が伸び、成果が出ています。インドでは有力な総代理店と関係を強化し、拡販を推進していきます。

## 中長期の事業ビジョン

当社グループの祖業である食器事業では、日本、米国を中心にカジュアルスタイルなどのニーズに合わせた展開を行うとともに、利益が確保できる事業体制への転換を目指してきました。しかしながら、2019年度はスリランカの爆破事件、2020年度は世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による経済の停滞に直面し、中期経営計画に掲げた事業計画の変更を余儀なくされました。特に、当事業の主要顧客であるホテル・レストラン、ブライダル、エアライン業界への大きな打撃によって、目指す方向性にも一部、軌道修正が必要となっています。その一方で、各国のオンライン販売は、好調に推移しています。

今後、ワクチンなどの感染対策が各国で進んでも、移動や旅行、外食の抑制や小売のオンライン化といったコロナ禍に生じた経済やライフスタイルの変化は、継続すると見られます。当事業

では、中長期に計画していたブランド再構築の道筋を精査し、必要な施策を前倒しで実施していくべきだと考えています。実店舗については、百貨店からアウトレットモールなど、新業態へのシフトを加速し、オンライン販売メディアとの融合により、幅広いユーザーにノリタケブランドの訴求と提案を強化、展開していきます。また、これまでホテル・レストランなどハイエンドのお客様と培ってきたノウハウを活かし、食空間に関わる新たな事業領域の創造も目指していきます。

これらの取り組みによって、長きに亘ってフォーマルウエアで培ってきたノリタケの高い品質は、オンラインや新業態ではじめて出会ったお客様にも間違いなく伝わると信じています。これからのノリタケを楽しみにしていただきたいと思います。

### TOPICS

#### ノリタケ食器公式オンラインショップがサイトリニューアル

2021年3月25日、ノリタケ食器公式オンラインショップが、リニューアルオープンしました。コロナ禍のニューノーマルで、オンラインショップのお客様が増えていることを受け、スマホやモバイル端末向けのショッピング機能を充実させるなど利便性を向上。さらに食のプロフェッショナルが選ぶテーブルウエアの紹介など新たなコンテンツを追加し、テーブルから広がる心地よい暮らしをお届けしてまいります。



ノリタケ食器公式オンラインショップ | NORITAKE ONLINE SHOP

# 研究・開発

Research & Development

ノリタケの技術のルーツは、100年前の洋食器製造技術の確立に遡ります。当時の「美しく白い精緻な磁器をつくりたい」という言葉に象徴される、ものづくりにかける熱い情熱は現在まで脈々と受け継がれており、セラミックスの多様な特性を引き出した新しい商品を世界に送り出しています。これからも、常に時代の先端を見つめながら、世界のお客様が求める技術と製品の開発に取り組んでいきます。



開発・技術本部長  
永田 滉

### 強みをもつ技術分野

- **微粒子合成技術**：金属・セラミックスのナノからマイクロサイズの微粒子合成技術
- **微粒子等への表面修飾技術**：金属・セラミックス微粒子表面の改質及び高機能化処理技術
- **分散技術**：金属・セラミックス等の微粒子の液中分散技術
- **成形技術**：独自の粉体技術で各種セラミックス部品を低コストかつ安定的に成形する技術
- **多孔体技術**：砥石を代表とする多孔質セラミックスに関する要素技術
- **接合技術**：金属とセラミックスなど熱膨張係数が異なる素材を接合するガラス技術
- **環境にやさしい加飾材料技術**：環境にやさしい、鮮やかな色彩を放つ顔料・釉薬・絵具材料技術
- **印刷・加飾技術**：スクリーン印刷、産業用インクジェット印刷等の加飾及び回路印刷技術

## 研究開発体制

開発・技術本部と事業部の技術部門を両輪として商品開発に取り組んでいます。開発・技術本部は、持続可能な社会の実現に貢献する新事業・新商品の創出と、それを実現する

ために必要な新しい要素技術を開発する役目を担っています。大学や外部研究機関との連携や、国家プロジェクトにも積極的に参画し、先端的な技術開発にも挑戦しています。

## 主な開発テーマとターゲット

食器、砥石、電子ペースト、セラミックス、エンジニアリング装置など、これまでの歩みの中で培ってきた技術の強みを活かし、それらをさらに高度化させることで、社会の未来や産業の革新に貢献することができる技術の開発に力を注いでいます。直ちに事業化を目指した商品から、将来社会を見据えた要素技術など開発テーマ毎にマイルストーンを設け、中長期的視点をもって開発を進めています。

気候変動問題への貢献、カーボンニュートラルを目指した取り組みに世界の国家や企業の関心が高まっていますが、ノリタケグループにおいても、今後あらゆる分野の技術開発で環境の視点が不可欠であると考えています。電気自動車、パワー半導体、エネルギー関連部材、次世代高速移動体通信など、人々が思い描く、未来の快適な社会の姿を実現するにはまだまだ多くの技術革新が必要であり、その一翼を当社が担っていると認識しています。

## セラミックスの技術がこれからの環境、社会を大きく変える きっかけとなる

食器の焼き付けには、釉薬というガラス材料が使われます。ノリタケでは、高温の水素で劣化しない、特殊なガラス材料を開発しました。このガラス材料で、安価に水素を製造する、次世代水素製造装置の実現に貢献していきます。

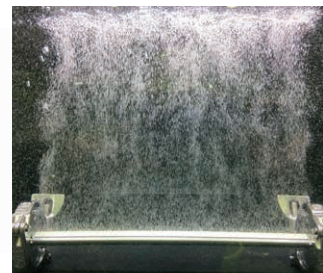
当社売上の約50%を占める砥石は、たくさんの気孔が開いているセラミックスで、多孔体と呼ばれています。このセラミックス中の孔（あな）を利用して様々な機能を発現させる『多孔質セラミックス』の研究・開発もノリタケの大きな強みとなっています。

ファインバブル（マイクロバブル+ウルトラファインバブル）発生技術も、多孔質セラミックスの構造を用いた技術です。これは、さまざまな液体に大きな力を加えることなく

バブルを発生させられるという特徴があります。当社は、その特徴を活かし、生活および産業の様々な用途に役立つ製品を飲料、食品、化学工学、金属加工、廃液処理、バイオなどの分野に提供しています。



ファインバブル高効率気液反応装置



ファインバブル発生写真

## 「焼く」工程で培ったさまざまな材料技術から焼かない技術へ

ノリタケは、高い温度で材料を焼き固め、製品化する技術を長年蓄積してきました。陶磁器用の水金や絵具による加飾技術を応用し、電子部品等に向けて展開している電子ペーストは、貴金属やガラスの粉末を主材に樹脂と溶剤でペースト状にしたものです。塗布した後、焼成し、樹脂、溶剤をなくします。近年、車載向けの市場が拡大し、軽量化や車の振動などによるダメージを軽減するため、樹脂を活用した焼かない導電ペーストの需要が高まっています。これらの要望に対応して、ノリタケは導電性を持った樹脂銀ペーストの開発を進めています。一般的な導電性樹脂銀ペースト

は車載電子部品の電極と振動吸収が目的で使われますが、周辺部品などから発生する熱の影響も大きく受けます。ノリタケの導電性樹脂銀ペーストは耐熱性が高いため、車載電子部品向けに適しています。



耐熱試験後の導電性樹脂銀ペースト(200℃×10時間)



## 加工技術及び熱対策が情報通信化の課題解決へ

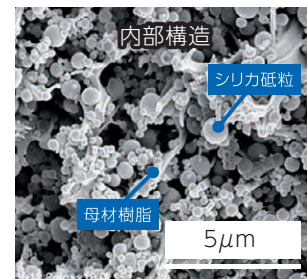
近年、スマートフォンやパソコンなどモバイル機器にはシリコン半導体が使われていますが、今後増えると言われていた電気自動車や次世代高速移動体通信にはパワー半導体の材料として電気損失が少ない素材が注目されています。これらの素材は加工が非常に難しい材料であり、加工工具や技術の革新が不可欠です。そこで、当社は環境に優しい半固定砥粒研磨工具（LHAパッド）を開発しました。これは、多孔質（気孔）構造を制御する技術や、貴金属の微粒子やセラミックス顔料を分散させた水金、絵具、電子ペースト技術の融合で実現したものであり、115年以上にわたって培ってきた食器技術の応用展開で成し得たものです。

もう一つの革新ポイントは熱に関する問題です。物質を焼くことで、さまざまな形状や色彩を自在に表現してきたノリ

タケの技術は、加熱、そして放熱といった課題に対しても大きな強みを発揮し、さまざまなイノベーションに貢献していると考えています。そこで、我々は今後伸びてくるパワー半導体の熱対策に貢献するため放熱セラミックス材料にも取り組んでいます。



半固定砥粒研磨工具 (LHAパッド)



## ESGへの取り組み

ノリタケグループは、お客様に心から喜んでもらえる製品を提供する(良品)、お客様を広く海外に求め、世界のお客様に喜んでもらえる事業を目指す(輸出)、会社や事業に関わるすべての人々が繁栄や幸福を分かち合う(共栄)という「社是」を原点として社会に貢献していきたいと願っています。全社員が高い志を持ち、自ら節度ある清廉な行動をするための指針として、社是に基づく「ノリタケグループ企業倫理綱領」を制定し、日々の企業活動を通じて、持続可能なより良い社会を実現するため、「ESG推進項目」を定め、取り組んでまいります。

### 企業倫理綱領

#### 社是「良品・輸出・共栄」の実践

社是である「良品・輸出・共栄」に従い、全世界に優れた製品・サービスを安全性に十分配慮し開発・提供することにより、顧客とともに成長し、広く社会に貢献する良き企業市民となります。

#### 法令・社会規範の遵守

法令や社会規範を遵守し、公正・透明・自由な競争を展開し、良識ある企業活動に努めます。また、健全な企業活動を阻害する反社会的勢力および団体などとは、一切接触しません。

#### 従業員の人権尊重

社員の基本的な人権を尊重し、年齢・性別・出身・国籍・人種・障害の有無・宗教・支持政党等を理由とした不当な差別を行わないことはもとより、社員の健康を守り、安全かつ衛生的な職場環境を実現します。

#### 地球環境の保全と、ゆたかで住みやすい地域社会への貢献

限りある地球資源を有効に活用し、その悪化が危惧される地球環境の保全に努力するとともに、ゆたかで住みやすい地域社会の実現に貢献します。

#### 株主・顧客・地域社会などへの情報開示

株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。

### 社是

#### 良品



お客様に心から喜んでもらえる製品を提供する。

#### 輸出



お客様を広く海外に求め、世界のお客様に喜んでもらえる事業を目指す。

#### 共栄



会社や事業に関わる全ての人々が繁栄や幸福を分かち合う。

ISO26000  
中核主題

推進項目

内容

ISO26000 中核主題	推進項目	内容
組織統治	社是の実践と 法令・社会規範の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業理念の浸透</li> <li>● ガバナンス体制の確立</li> <li>● 内部通報制度の活用</li> <li>● 取引関連法規制の遵守</li> <li>● 腐敗の防止</li> <li>● 知的財産教育の充実</li> </ul>
人権	基本的人権および ダイバーシティの尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人権を尊重した処遇</li> <li>● 女性活躍の推進</li> <li>● 人材育成の重視</li> <li>● 障がい者雇用の推進</li> </ul>
労働慣行	安全と健康をすべてに 優先	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全衛生活動の推進</li> <li>● 健康経営の推進</li> <li>● ワークライフバランスの 尊重</li> </ul>
環境	地球環境の保全と 持続可能な社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CO<sub>2</sub>と排出物の削減</li> <li>● 環境貢献製品の充実</li> <li>● 環境配慮機器使用の促進</li> </ul>
公正な事業慣行	ステークホルダーへの 情報開示	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 適時的確な情報開示</li> </ul>
消費者課題	良い製品やサービスの 提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ものづくり強化活動の 推進</li> </ul>
コミュニティの 参画と発展	ゆたかで住みやすい 地域社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域社会との共生</li> <li>● 地域貢献活動の推進</li> <li>● 留学生支援の継続</li> </ul>

地球環境と  
ともに

社会とともに

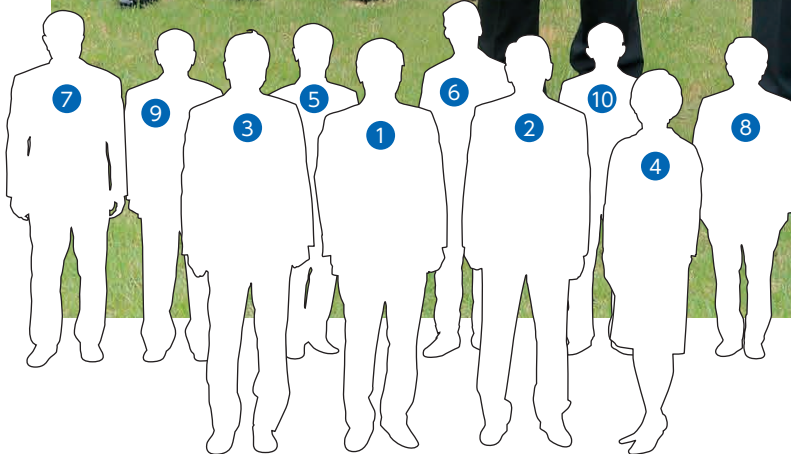
株主・投資家の  
皆さまとともに

お取引先様と  
ともに

お客様と  
ともに

従業員と  
ともに

マネジメント体制



取締役

① 小倉 忠 代表取締役会長

② 加藤 博 代表取締役社長

③ 東山 明 取締役専務執行役員  
工業機材事業本部長

④ 夫馬 裕子 取締役執行役員  
経営管理本部長

⑤ 友添 雅直 社外取締役

⑥ 山本 良一 社外取締役



## 執行役員



**志手 秀司**  
専務執行役員  
共立マテリアル株式会社  
代表取締役社長



**永田 滉**  
常務執行役員  
開発・技術本部長



**堀江 雅彦**  
常務執行役員  
株式会社ノリタケ  
コーテッドアプレシブ  
代表取締役社長



**寄田 浩**  
常務執行役員  
セラミック・マテリアル  
事業本部長



**岡部 信**  
常務執行役員  
工業機材事業本部  
営業本部長



**前田 智朗**  
執行役員  
エンジニアリング事業部長



**鵜飼 直行**  
執行役員  
工業機材事業本部  
製造本部長



**村居 浩之**  
執行役員  
日本レヂボン株式会社  
代表取締役社長



**中村 吉雅**  
執行役員  
経営管理本部 副本部長  
財務部長



**市川 賢一**  
執行役員待遇  
セラミック・マテリアル  
事業本部  
電子ペースト事業部長



**水口 宗成**  
執行役員待遇  
食器事業部長  
米国ノリタケ社長  
ノリタケスリランカ会長



**近藤 朋治**  
執行役員待遇  
工業機材事業本部  
技術本部長



**加藤 真示**  
執行役員待遇  
セラミック・マテリアル  
事業本部  
セラミックス事業部長

## 監査役

- 7 左合 澄人 常勤監査役
- 8 吉田 和正 常勤監査役
- 9 猿渡 辰彦 社外監査役
- 10 森崎 孝 社外監査役



本社

# コーポレート・ガバナンス

## Corporate Governance

### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針



ビジネスのグローバル化が進行し、企業活動が及ぼすあらゆる影響について社会的責任が厳しく問われています。ノリタケグループでは全役員および従業員の一人ひとりが当社の創業者の精神を受け継ぎ、これに基づき策定した「ノリタケグループ企業倫理綱領」の遵守と実践を通して、より高い企業倫理を備えたノリタケグループを体現していきます。また、当社ウェブサイトを通じて財務情報等の提供を図るなど、積極的かつ公正な情報開示に努め、経営の透明性を高めていきます。

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本方針は右のとおりです。

#### 基本方針

- 01 株主の権利・平等性の確保に努めます。
- 02 株主以外のステークホルダー（お客様、お取引先様、債権者、地域社会、従業員等）との適切な協働に努めます。
- 03 適切な情報開示と透明性の確保に努めます。
- 04 会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図るべく、取締役会の役割・責務の適切な遂行に努めます。
- 05 株主との建設的な対話に努めます。

### コーポレート・ガバナンス体制

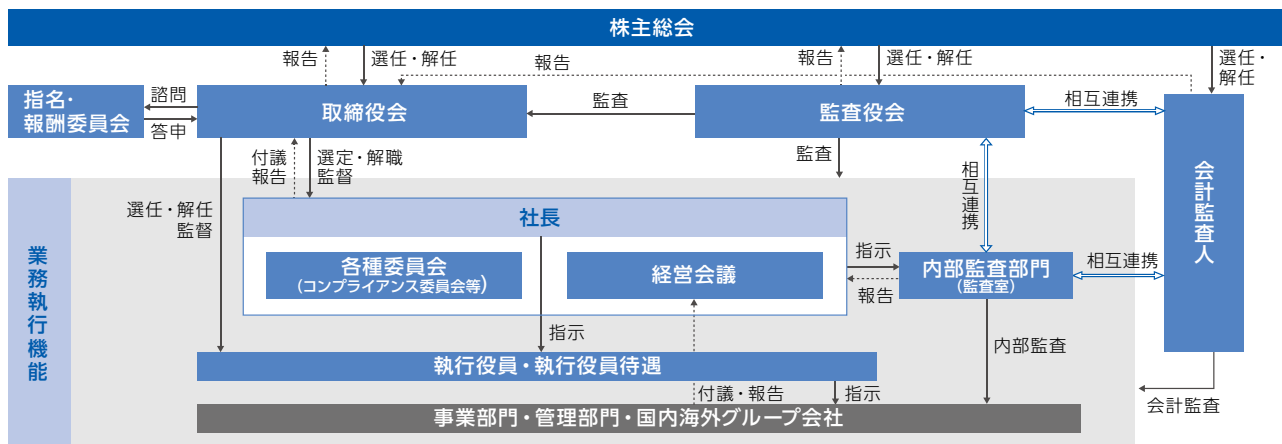
当社は監査役会設置制度を採用し、株主総会、取締役会、監査役会に加え、経営会議や各種委員会からなるコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。

取締役会は、経営の基本方針や法令で定められた事項を

はじめとする重要事項を決定する機関とし、執行権限の委譲と執行責任の明確化のため、執行役員制度を導入しています。さらに、優秀な人材の早期登用を促進するため、2019年4月1日付で執行役員待遇制度を導入しました。



## ■ コーポレート・ガバナンス体制図



### 取締役会

構成人数 6名(社内取締役4名、社外取締役2名)

2020年度開催回数 13回

当社の取締役会は、重要事項の決定並びに業務執行の監督のため、業務執行にあたる執行役員と執行役員待遇も加えて原則として月1回開催し、グループ全体の意思統一を図っています。2020年度においては13回開催し、平均出席率は取締役100% 監査役98%でした。取締役会規程並びに取締役会付議基準に従って、株主総会に関する事項、人事・組織に関する事項、決算に関する事項等を審議しています。また社外取締役を2名選任し、取締役会の監督機能を強化するとともに意思決定の透明性を確保する体制としています。

#### ■ 取締役会の主要議題

2020年度は主に次の議題について審議しました。

##### 決議事項

- 予算、決算の承認
- 業績予想、配当予想の修正
- 内部統制システム構築の基本方針の改定
- 重要な諸規程の制定および改定
- 重要な契約の締結

##### 報告事項

- 中期経営計画の進捗状況
- 生産設備等への投資計画
- 投資有価証券の保有状況
- 各委員会からの報告(コンプライアンス委員会、中央安全衛生委員会、ものづくり強化委員会)

### 経営会議

構成人数 7名(社内取締役および社長が指名する執行役員・執行役員待遇)

2020年度開催回数 25回

業務執行に関する経営上重要な事項については、社内取締役および社長が指名する執行役員・執行役員待遇で構成される経営会議で、十分な審議を行っております。原則として週1回開催し、的確かつ迅速な経営判断を行う体制を整えています。

### 指名・報酬委員会

構成人数 6名(代表取締役2名、社外役員4名)

2020年度開催回数 2回

役員の人事および報酬決定についての合理性ならびに透明性を確保するため、取締役会の諮問機関として、独立社外役員が過半数を占める指名・報酬委員会を設立しています。取締役会からの諮問に基づいて、取締役および執行役員の人事と報酬に関する事項について審議を行い、その審議結果を取締役に答申しています。

### 監査役会

構成人数 4名(常勤監査役2名、社外監査役2名)

2020年度開催回数 12回

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況および結果について報告を受けるほか、取締役会、内部監査部門である監査室等と意思疎通を図り、情報の収集に努めています。また、監査役は取締役会、経営会議その他重要な会議に出席し、取締役の職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めています。当社はコーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、かつ中立な経営監視の機能が重要と考えており、社外監査役2名による経営監視機能が十分に発揮される体制を整えています。



経営会議

## 取締役会の実効性評価

当社は取締役会の実効性を高め、企業価値を向上させることを目的として、取締役会の実効性に関する評価を実施しております。毎年度終了時に、取締役及び監査役を対象としたアンケートを実施し、分析と評価を外部機関に委託して、その結果を取締役に報告しております。

2020年度においては、取締役会の構成と運営、経営戦略と事業戦略、企業倫理とリスク管理、業績のモニタリングと経営陣の評価・報酬、株主等との対話を評価項目とするアンケートを実施しました。取締役会の実効性に関する分析と評価の結果は次のとおりです。

- 取締役会が、役割、責務を果たす上で必要な知識、能力、経験並びに多様性が確保された適切なメンバー構成となっている。また、取締役会での決議事項と経営陣に委任すべき判断事項との振り分けが適切になされている。
- 取締役会が、年度ごとの実効性分析評価で把握された重要な課題について適宜改善の施策を打ち、実効性の向上に努めている。
- 取締役会が企業倫理を重視する企業風土の確立を図るとともに、その浸透のための適切な監視・監督を行っている。また、当社グループ全体の内部統制システムが構築・運用されていることの適切な監視・監督を行っている。
- 経営陣の報酬スキームの設計が、会社の経営・事業戦略と整合し、短期的及び長期的目標のバランスがとれているものとなっている。

以上のことから、当社の取締役会は適切に運営され、実効性は確保されていることを確認いたしました。

2019年度の実効性評価で課題として挙げられていた項目のうち、「役員トレーニングの充実」については定期的な役員研修を実施し、「リスク管理体制の強化」についてはリスクを把握した上で審議を行う体制とすることで、2020年度の実効性評価で改善が確認されたものの、なお改善の余地があるとして引き続き取り組んでまいります。

また、今回のアンケート結果から抽出された取締役会の実効性改善のための新たな課題として、資本コストなどを踏まえた事業ポートフォリオの見直し、株主や機関投資家等との対話内容の共有が挙げられており、今後はそれらに取り組むことで引き続き取締役会の実効性の維持・向上に取り組んでまいります。

## 社外取締役と社外監査役の状況

取締役会の監督機能の強化、意思決定の透明性を高めるとともに、経営全般についての様々な助言・提言を得るため、企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識を有する社外役員を招聘しています。

社外役員は、当社との間に人的関係、資本的関係、または取引関係その他の利害関係はありません。

### ■ 社外取締役と社外監査役の選任理由(2021年6月)

	氏名	選任理由
社外取締役	友添 雅直	企業経営に関する豊富な経験とグローバルな見識を活かし、取締役会の監督機能強化への貢献及び幅広い経営的視点からの助言等、適切な役割を果たしていただくことを期待し、社外取締役に選任しております。
	山本 良一	企業経営に関する豊富な経験と高い見識を活かし、取締役会の監督機能強化への貢献及び幅広い経営的視点からの助言等、適切な役割を果たしていただくことを期待し、社外取締役に選任しております。
社外監査役	猿渡 辰彦	企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識を当社の監査に反映していただくことを期待し、社外監査役に選任しております。
	森崎 孝	金融機関における経営者としての豊富な経験と幅広い見識を当社の監査に反映していただくことを期待し、社外監査役に選任しております。

## 取締役報酬の決定に関する方針

取締役の報酬は、固定報酬および業績連動報酬で構成されています。

固定報酬は、独立社外役員を過半数として構成される指名・報酬委員会において、報酬制度に関する基本方針や役割および職責に相応しい役位別の報酬金額の妥当性等に関して審議を行い、その結果を取締役会へ答申することで合理性並びに透明性を確保し、取締役会で決定しています。

業績連動報酬は、株式交付規程に基づき、中長期的な企業価値向上を意識した経営へのインセンティブを付与するため、各事業年度の企業業績目標(連結売上高、連結営業利益等)の達成度等に応じて決定しています。固定報酬と業績連動報酬の比率については、中長期的な業績の安定と向上を重視し、業績連動報酬の割合が過度にならないように設定しています。

社外取締役および監査役については、独立した立場から経営を監督、監査する役割を考慮し、固定報酬のみとしております。

#### ■ 取締役および監査役の報酬等の総額(2020年度)

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)		対象となる 役員の員数 (人)
		金銭報酬	非金銭報酬等	
		固定報酬	業績連動報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	208	182	26	5
監査役 (社外監査役を除く)	40	40	—	2
社外役員	38	38	—	4

注1. 取締役の固定報酬の限度額は、第109回定時株主総会(1990年6月28日開催)において、月額40百万円以内と決議しています。

また、業績連動型株式報酬の額は、第135回定時株主総会(2016年6月29日開催)において、固定報酬とは別枠で、社外取締役以外の取締役及び所定の要件を満たす執行役員を対象として、3事業年度の制度対象期間ごとに信託金の上限額を600百万円と決議しています。

注2. 監査役の固定報酬の限度額は、第109回定時株主総会(1990年6月28日開催)において、月額6百万円以内と決議しています。

## 役員に対するトレーニング

取締役・監査役就任時に、役員として遵守すべき法的な義務・責任等について適切な説明を行い、必要に応じて外部研修機関も活用しています。就任後も適宜セミナーの受講等、必要なスキル・知識の習得に努めています。2020年度は役員向けセミナーを4回開催しました。また、社外役員には、経営戦略、事業・業務内容、財務内容等について、個別に説明の機会を設けています。



役員向けセミナー

## 内部統制

当社は業務の適正を確保するための体制について、法令の改正および当社グループの現状に即して見直しを行っており、現在は、2020年4月23日開催の取締役会で改定決議した体制で適切に運営しています。

内部監査部門により、財務報告に係る内部統制規程を定め、財務報告の信頼性を確保するための業務手順に対する

継続的なモニタリングを行っています。また、内部監査規程を定め、事業部門およびグループ会社の事業活動に関する法令準拠性に係る内部監査を実施しています。これら取り組みを通じて発見された事項のうち、重要なものは取締役会や経営会議に報告しています。

## サプライチェーンマネジメントの推進

ノリタケグループは安定して事業を継続するためには、サプライチェーンマネージメントが重要であると考えており、2020年度に購買方針を制定しました。すべてのお取引先様と相互に信頼関係を構築し、各国の法律に準拠した取引に努めます。そして、主要なお取引先様との関係を継続的に見直しています。環境に配慮した原材料の調達を進めるとともに、紛争地域に由来する鉱物の購入には十分留意しています。

### <ノリタケグループ 購買方針>

ノリタケグループは、社是である「良品・輸出・共栄」の理念のもとに、お客様に満足していただける良い製品と良いサービスを継続して提供するための購買活動に取り組みます。お取引先様との共栄を目指した信頼関係を築き、お取引先様と協力しながら企業の社会的責任を積極的に果たしていきます。

- (1) 広く門戸を開放し、公正な取引を誠実に行います。
- (2) お取引先様の選定にあたっては、品質・価格・納期に加え、企業の社会的責任に取り組む姿勢も含めて総合的に判断します。
- (3) お取引先様は良きパートナーであり、相互信頼を深めて共栄を図ります。
- (4) 各国・地域の法令・社会規範を遵守するとともに、高い倫理観に基づいて行動します。
- (5) ノリタケグループ環境方針に沿って、環境に配慮した購買を推進します。

## コンプライアンスの徹底

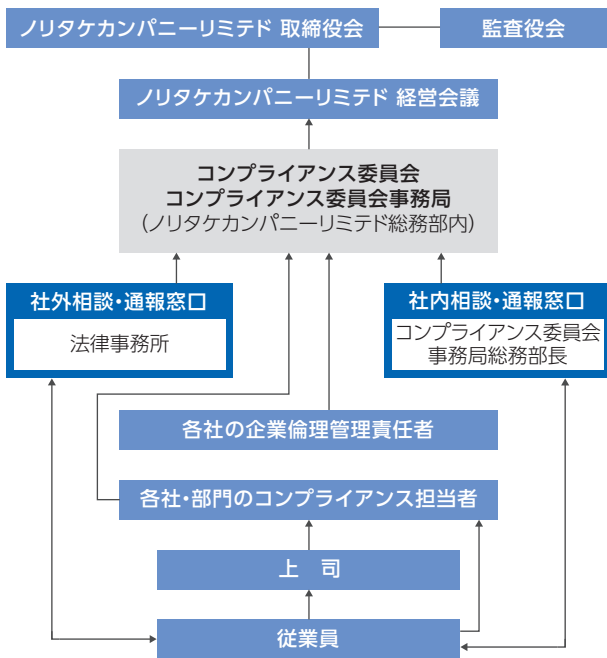
ノリタケグループはコンプライアンス委員会を中心に、職場単位でもコンプライアンス担当者を選任し、組織として継続的にコンプライアンス活動を推進しています。

委員会は年2回開催し、それ以外にコンプライアンス連絡会を

設け年4回、実際の事例から、発生の防止に向けた取り組みを検討、共有しています。また、専門的な知識の習得を推進するため、階層別研修、職制別研修、目的別研修、海外赴任者研修でコンプライアンスについて取り上げ、社員教育を実施しています。さらに社内報では毎回、日常の業務に関わる法令などについて事例を挙げて分かりやすく解説し、全従業員への周知を図っています。

「ノリタケグループ企業倫理綱領」を制定し、その中で贈賄防止等に関する法令の遵守と業務遂行に当たって守るべき倫理規準を定め、全従業員への周知徹底を図るとともに、予防対策にも取り組んでいます。

## ■ コンプライアンス体制図



## 内部通報制度の整備

ノリタケグループの従業員が法令、行動基準、社内規程などの違反やその疑いのある行為を発見したときには、管理責任者や上司を通さず直接相談・通報できる窓口を、社内外に設けています。通報者や内容に関しては、秘密を厳守します。また、相談や通報をしたことによって、会社から不当な扱いを受けることはありません。2020年度の通報件数は11件でした。

## 防災・減災への取り組み

防災委員会を年2回開催し、大規模災害の発生を想定した避難訓練を、事業所単位で年2回実施しています。

また、BCP(事業継続計画)については、一部の事業において策定を始めています。

## リスク管理体制の整備

経営上の問題や事故、災害などで企業価値を損なうような危機に直面した時、可能な限り損失を低減し、事業を継続させることができるよう「危機管理規程」を定めています。この規程では、「安全、とりわけ人命を最優先すること」を第一とし、危機が発生した時は直ちに対策本部を設置して対応することを定めています。

また、「防災管理規程」にのっとり、あらゆる危機の発生を想定し、いざという時に迅速かつ適切に対応できるよう、日頃から全従業員への周知を図り、「危機管理体制」の確立に努めています。

## 情報セキュリティの強化

個人情報を含めた情報資産の保護については、リスクを排除し、安全に事業活動を行うため、「情報セキュリティ管理規程」を定めています。この規程は、すべての役員、従業員に対して情報セキュリティに関する行動規範を示すもので、これに基づいて、対策標準や実施手順書を作成し、運用しています。

また、担当役員のもとには推進部門を置き、セキュリティ強化に取り組んでいます。不正アクセスやサイバー攻撃に備えて、厳格なID管理、パソコン操作ログ取得、セキュリティオペレーションセンターでの24時間監視、標的型メールへの対応訓練などを実施しています。

## 個人情報保護方針

ノリタケグループは個人情報の保護の重要性を十分に認識し、わが国の「個人情報の保護に関する法律」を遵守するほか、各国の法律に留意して、お客様からご提供いただいた個人情報の適正管理に取り組んでいます。

参考URL [個人情報の保護]

[https://www.noritake.co.jp/utility/privacy\\_policy/](https://www.noritake.co.jp/utility/privacy_policy/)

## 社外取締役からのメッセージ

社外取締役として、つねに独立性を保ちながら  
ノリタケグループの長期的な企業価値向上に尽力してまいります。

### ● 新型コロナウイルス感染症拡大への対応をどのように評価されましたか？

当初、私自身も含め、感染症の影響は一時的なもので、すぐに市況が回復すると楽観視していた部分があったと思います。しかし、感染が瞬く間に世界に拡がり、収束の見込みが立たない状況に陥る中で、取締役会はリスクを明確に認識して収益計画を見直し、守りの予算を組んで動き出しました。まだ先が見えない段階でしっかりとした経営判断をされたために、年度の後半、予想より早く市況が回復した時に収益の落ち込みを挽回することができたと思います。そして、今回の経験によって社内のデジタル化も進んだほか、事業のリスクと機会、守りと攻めの意識が社員の間で明確に認識されたように感じます。ノリタケグループはより強く変化したのではないのでしょうか。

### ● 社外取締役としての役割と企業統治に関する意見をお聞かせください。

コーポレートガバナンス・コードの改定に伴い、社外取締役の責務はますます重くなっていると認識しています。長い歴史を持ち、顧客との信頼関係を重視してきたノリタケグループの経営実態に則し、当社の企業統治体制を、コーポレートガバナンス・コードを踏まえ、日々実効性のある中身となるように、改善し続けることが肝要です。そのためにも、継続的な対話を通じて、株主様も含めたノリタケに関わる全てのステークホルダーの視点を経営に取り入れて行くことが非常に重要であると考えています。

取締役会の議論では、社外取締役として内部の役員が見落としがちなリスクや問題を踏まえて、指摘や意見をしていくよう心掛けてきました。今後も、つねに独立性を保ちながらノリタケグループの長期的な企業価値向上に尽力していきたいと考えています。

### ● ノリタケグループが今後、とくに取り組むべき領域はどのようなものですか？

近年はどのように企業が社会に貢献するかが問われています。その意味でもやはりESGへの対応、なかでも地球環境保護への貢献は不可欠だと思います。ノリタケグループの根幹であるセラミック関連技術は、電池や浄水、大気浄化等に利用され、幅広く環境に貢献しています。今後のグループの技術開発においても、SDGsのターゲットに関連する分野や社会、環境への課題解決に役立つ領域に積極的に取り組むべきだと思います。

### ● 今後、ノリタケグループに期待するところをお聞かせください。

柱となる事業4つを持ち、さまざまな国籍の人材が世界に散らばり、多様なお客様を有しています。生産、販売ネットワークも世界に広がっており、たくさんの情報がノリタケグループに集まってくることでしょう。これらの情報を集約し、整理・分析していくことで、社会の動きと合致する新たな製品を生み出す力がノリタケグループにはあると思います。世界の市場において非常に大きな飛躍をする企業であると期待しています。

社外取締役  
友添 雅直  
Masanao Tomozoe





ステップアップ研修

# 社会とともに

With society

## 従業員とともに



### ▶ 基本的な考え方

ノリタケグループは、働く人の人権と多様性を尊重します。ノリタケグループ企業倫理綱領に定める「倫理規範」「行動基準」に従い、全社員の基本的な人権を尊重し、採用・配置・昇進・処遇などのいかなる場合においても、年齢・性別・出身・国籍・人種・障がいの有無・宗教・支持政党などを理由とした不当な差別を行なわないことを基本方針として、多様な人材の活躍を推進しています。人権についての啓発活動として、職場における人権、企業活動における人権をテーマとした研修を実施しています。

### ▶ 人材育成

ノリタケグループでは、各職場のOJT(On the Job Training)を中心に人材育成を進めています。OJTを支えるため、従業員の資格ごとに、求められる役割や、課題・問題解決といった仕事の進め方を学ぶ「階層別研修」を実施しています。加えて、営業、技術、購買、法務、品質など、多岐にわたる専門的な知識やスキルを学ぶ「目的別研修」を、OFF-JTとして実施しています。また、自己啓発のための通信教育講座を多数用意し、特に会社が推奨する講座には受講料を全額補助する制度もあります。語学スキルアップや公的資格取得のため多くの従業員が利用しています。



階層別研修 (オンライン)



新入社員研修

## ■ 公的資格取得者数および通信教育講座受講者数(名)

年度	2017	2018	2019	2020
公的資格取得者	118	131	115	78
通信教育講座受講者	600	576	605	671

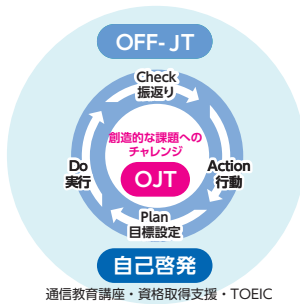
### 「基幹職」

課題解決力の強化  
部下の育成  
リーダーシップ  
マネジメント  
コンプライアンス

### 階層別研修

### 「社員職」

問題解決力の強化  
役割認識  
品質管理  
コンプライアンス  
財務・会計

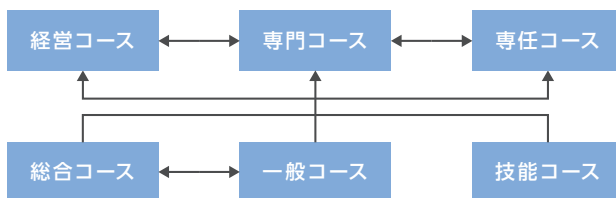
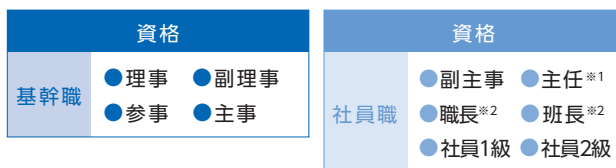


### 目的別研修

法務  
安全衛生管理  
環境  
メンタルヘルス  
コミュニケーション

## ▶ 個性を活かす人事コース

ノリタケカンパニーでは、従業員一人ひとりが個性を活かして働くことができるよう、複数の人事コースを用意しています。所定の審査を経て、一度選択したコースから途中で変更することもできます。また、一部の階層には、従業員が仕事に対する自己の能力と適性や職場における人間関係について、自分で分析・評価し、それを本人が直接会社に申告する制度を設けています。



※1は総合・一般コースのみ ※2は技能コースのみ

## ▶ 女性活躍推進法に基づく行動計画の推進

女性活躍推進法に基づき、女性の活躍推進によって多様化を進め、優秀な人材の確保や事業の成長に資するため、「一般事業主行動計画」を策定し、推進しています。

## 一般事業主行動計画

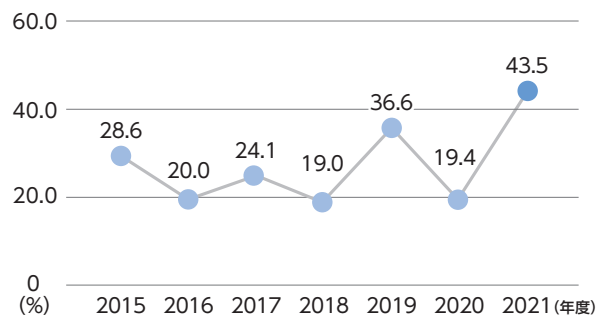
計画期間：2019年4月1日～2022年3月31日

女性が活躍できる職場環境を整備し、能力発揮・キャリア形成の実現のため、新たな行動計画を策定しました。2021年度に女性基幹職を2018年度比25%増、女性役職者を同2倍とすること、および女性が能力を発揮できる環境づくり、女性の活躍を推進する風土を醸成することを目標に掲げ、取り組みを進めています。

2020年度は、大卒女性の採用比率の向上、部下の両立支援のための上司向け研修などを行い、社内の意識改革を図りました。

2021年度は、男性の育児休暇と育児短時間勤務を推奨する「利用ガイド」を発行しました。また総合コース以外の女性従業員を対象としたステップアップ研修、基幹職昇格・人事コース転換をした女性を部下に持つ上司向け研修等、能力開発・人材活用のためのセミナー・研修を継続し、更なる女性の活躍を推進します。

## ■ 新卒採用に占める女性比率の推移(大卒以上)



## ▶ ワークライフバランスの向上

当社は、従業員のワークライフバランス向上を推進しています。残業時間の抑制、年次有給休暇の取得推奨、個人のライフイベントに対応できる様々な休暇・休業制度を整備して、従業員の多様な働き方を支援しています。近年においては、年次有給休暇を1時間単位で取得できる制度や、育児・介護が必要な従業員向けにフレックス勤務制度(短時間勤務またはフルタイム)の浸透が進みました。その結果、育児と仕事の両立や、メリハリをつけて仕事を効率的に行う文化が、従業員の間に広がっています。

育児休業については女性従業員はもちろん、近年は男性従業員の取得も増加しており、会社として一層の推進を図ります。

また、昨年度は新型コロナウイルス対策として在宅勤務制度を制定し、働き方の多様化を加速しています。

● 平均有給取得日数…5年連続10日以上

### ▶ 安全衛生管理体制

ノリタケグループは、安全かつ衛生的で心身ともに健全に働ける快適な職場環境が事業活動の基盤であり、継続的な改善に取り組む責任があると考えています。

#### ノリタケグループ安全衛生基本方針

ノリタケグループは、そこで働く全ての人の安全と健康を守ることは企業活動の最も重要な基盤であるとの認識の下、安全で快適な働き甲斐のある職場づくりに積極的に取り組みます。

- ① 「安全」と「健康」を全てに優先させる。
- ② 安全衛生に関する法令と社内ルールを遵守し、安全衛生管理水準の向上に取り組む。
- ③ 良好なコミュニケーションの維持・向上に努め、全員参加の活動をする。

労働災害の防止と従業員の健康維持のため、グループ安全衛生基本方針に基づき、年度ごとに安全衛生管理目標を立てています。毎月、安全衛生委員会を開催し、労働災害の事例や対策を共有することで類似災害の防止を図っています。さらに、全従業員に安全衛生手帳を配布し、安全衛生の基本や作業別の注意事項などの周知に努めています。

#### ■ 安全衛生管理体制図



中央安全衛生委員会

### ▶ 労働災害の防止への取り組み

2020年度は、労働安全衛生マネジメントシステムに基づく全社安全衛生活動を推進し、内部監査で、活動の問題点や課題の解決を図り、継続的改善を行いました。労働災害防止の取り組みとして、危険箇所マップ化、安全体感教育、危険予知トレーニングに加えて日常管理の中で、安全観察(作業者が作業標準を守り、管理者は守れる環境を整えることを双方向コミュニケーションで図る)を継続展開しました。

2021年度は、労働災害リスクを再評価し、全員参加で未然防止活動を実践することに継続して取り組んでいきます。



安全監査



安全体感教育



安全作業観察

### ▶ 従業員の健康管理

#### 健康経営の推進

ノリタケグループは、従業員の活力が企業活力の源泉と捉え、2020年4月1日に健康経営宣言を採択しました。

社長を最高責任者、経営管理本部長を推進責任者、人事部を推



進主体とし、健康保険組合、労働組合、産業医と連携した体制を整え、従業員とその家族の健康づくりを積極的に進めています。

### 健康経営宣言

ノリタケグループは、従業員の活力が企業活力の源泉ととらえ、従業員とその家族の健康づくりを積極的に推進していきます。

▶ 健康意識の向上を図ります。

健康教育の強化  
健康を大切にす意識の醸成

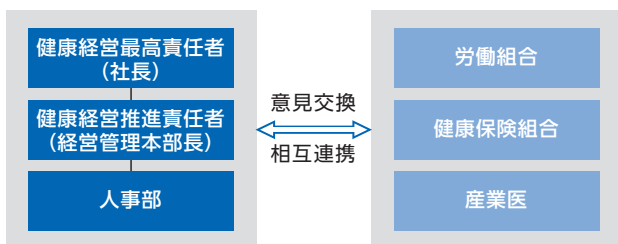
▶ 心身の健康増進を図ります。

早期発見・早期治療の促進  
食事、運動、睡眠等の生活習慣の改善支援  
心身のリフレッシュ促進

▶ 働く環境を整備します。

誰もがいきいきと働くことができる環境の整備

### ■ 体制図



### 健康づくり事業

2020年度は各職場へポスターを配布し広く宣言内容を周知し、健康経営アンケートにより従業員の健康意識や充実度などの現状把握を行い施策立案に活用しています。また、ノリタケグループ健康保険組合によるウォーキングイベントには420名が参加し、参加者からは、運動を意識するようになった、歩くのが好きになったなどの声が寄せられています。2021年度は女性がん検診費用補助、健康セミナー開催など、引き続き従業員の健康づくりを推進する施策に取り組んでいきます。



熱中症対策セミナー

### 健康リスク低減

ノリタケグループ健康保険組合加入者の1人当たり保険給付費は以下のように推移しています。

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
126,254円	134,434円	129,818円	121,614円	114,957円

特に、従業員の健康リスクとなる生活習慣病予防を課題と捉え、特定保健指導実施率55%(2021年度末)を目標に掲げ、本人へ直接受診勧奨するなどにより、受診率を向上させてきました。

特定保健指導実施率(ノリタケグループ健康保険組合加入者全体)

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
20.3%	22.0%	39.1%	47.9%	45.0%

今後も目標達成に向け特定保健指導に力を入れるほか、健康な方への一層の健康増進にも取り組み、長期の健康リスクの低減に努めてまいります。

### 心の健康管理(メンタルヘルスケア)

新入社員から管理者まで従業員の階層に応じたメンタルヘルス教育を行い、心の健康向上を図っています。

また、ストレスチェックによる組織分析結果を踏まえ職場改善・研修などを実施し、リスクの低減に努めています。

ストレスチェックの総合リスク(ノリタケカンパニー)

2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
106	104	104	103	100

### 品質への取り組み



#### ものづくり強化活動

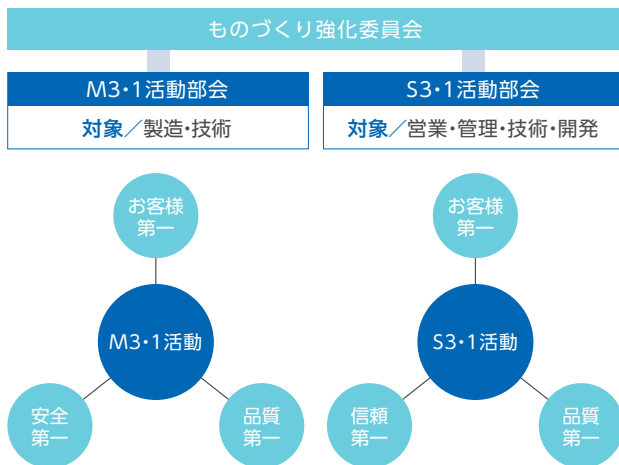
ノリタケは、「白く美しい精緻な洋食器を日本で作りたい」という創業者たちの熱い想いから誕生した「ものづくり」の企業です。この精神に基づき、ノリタケグループでは、製品やサービスの品質向上に取り組んでいます。

2011年に製造部門からはじめた「ものづくり3・1(M3・1)活動」にて、基盤整備活動を開始し、安定した生産のために安全や2S、標準化などの基盤となる仕組みの整備を実施してきました。また、技術部門を対象とした「品質活動」についても統合し、製造と技術が一体となって進める活動へと進化させています。2016年からは基盤強化活動として、生産現場の5大

## 12. 社会とともに

使命である「安全」「品質」「生産」「原価」「人材」をコントロールする管理標準・基準と仕組みづくりの活動へ展開しています。

また、営業・管理・技術・開発部門においても「S3・1活動」として拡大し、現在は「M3・1活動」「S3・1活動」の二本柱で全員参加の活動を進めています。



M3・1活動

### 〈 M3・1活動(製造・技術部門) 〉

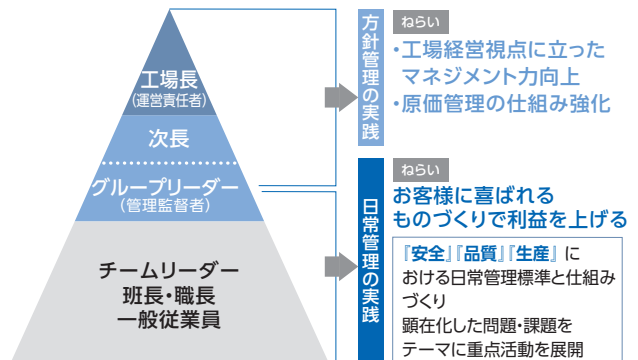
M3・1(エムサンイチ)活動では、製造・技術部門を対象に「お客様第一、安全第一、品質第一」を掲げ、この3つの「第一」の達成が、事業を通じて社会に貢献し続けるために重要であるとの認識の下、活動を推進しています。ものづくり体制を一層強化するために、基盤強化活動と品質活動の二本柱で進めています。

#### 基盤強化活動

基盤強化活動では、品質(Q)、コスト(C)、納期(D)をより確実にコントロールするために、生産現場の5大使命のなかでも、「安全」「品質」「生産」については重点活動を決めて取り組み、日常管理の質向上を目指して活動展開しています。また、2020年度からは原価管理の仕組みの再構築を推進しています。

ノリタケグループの13工場では、現地現物での活動部会を開催して、5大使命の活動状況を工場現場で確認し、参加者による議論や良好事例の横展開を実施しています。

#### ■ 工場の階層別役割



#### 品質活動

お客様が求める“良品”を速やかに、かつ確実に提供できる仕組みを整えるため、「良品活動」と「生産準備活動」を推進しています。

#### 良品活動：

クレーム対応や工程内不良の対策に役立つ情報を見える化し、「大部屋活動」にて是正や改善に取り組んでいます。工場の大部屋活動とは工場長等のトップと、製造・生産技術・品質保証・商品開発などの関係者が横串で集まり、要因解析、対策協議してスピード感を持って実践する活動です。

#### 生産準備活動：

商品企画から量産化までのプロセスをより充実させ、各ステップで行うべきことや確認すべき項目について、標準的なステップを確立していくための活動が「生産準備活動」です。生産準備についてノリタケグループ共通の標準を定め、各工場の仕組みに落とし込んで運用と改善に取り組んでいます。



大部屋活動

## 〈 S3・1活動(営業・管理・技術・開発部門) 〉

S3・1(エスサンイチ)活動は、営業、管理、技術、開発などのスタッフ部門が取り組むものづくり強化活動です。SはService(業務)のSを、3・1はスタッフ部門が業務を遂行する上で常に心掛けるべき「お客様第一、品質第一、信頼第一」の3つの「第一」を意味しており、これらを意識しながらお客様(仕事の成果を渡す相手のこと)に心から喜んでいただくことを目指して、業務の質を高めることを目指します。

活動のモットーは「全員参加」「後工程はお客様」で、スタッフ部門の全員が「お客様」の目線に立って業務を見つめ直し、あるべき姿を目指して業務を整備します。活動は、基本的に職制に基づく小集団で推進し、ミスの防止や業務のQCD向上の実現を目指します。また、この活動に取り組むことで、社員と組織の意識改革や課題解決力の向上を図り、人材育成や強い組織づくりにつなげていきます。



S3・1活動報告会

このほか、株主や投資家の皆さまが事業報告書や決算発表資料などの各種情報を容易に入手できるよう、ウェブサイトの充実を図っています。



### ▶ お取引先様とのコミュニケーション

ノリタケグループは、お取引先様と業界の経済環境や動向および当社の調達の見通しなどの情報を共有し、適切な関係の構築、維持を図っています。また、安全衛生を確保するための取り組みも行っています。特に、製造、施工などで多くのお取引先様からの協力を得ているエンジニアリング事業部では、定期的にセミナーなどを開催して、労働災害の防止を図っています。

この他、社内向けには、下請法に関する講習を定期的に行い、従業員に周知徹底しています。

### ▶ お客様とのコミュニケーション

お客様の声を製品やサービスに反映させるため、また、製品を安全にご使用いただくため、食器事業部内にお客様相談室を設置し、ご意見やお問い合わせを共有する仕組みを構築しています。

## ステークホルダーとの コミュニケーション



### ▶ 株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

毎年6月下旬に名古屋市のノリタケカンパニー本社で、定時株主総会を開催しています。2021年6月の第140回定時株主総会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、少人数での開催となりました。

また、本決算と第2四半期決算の発表後には、証券アナリストを対象とした決算説明会を開催しています。2020年度の本決算後の説明会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、開催を見送り、ウェブサイトに説明資料を掲載しました。

### 製品の安全性について

ノリタケグループでは研究・開発から設計、製造、流通および販売のすべてのプロセスにおいて、製品の安全性に十分に配慮し、お客様に安心してお使いいただけるよう努めています。そのために、法令などの遵守はもちろん、自主基準を設け、これに従っています。このほか、わかりやすい取扱説明書を添付することで、誤った使用方法による事故を未然に防ぐ努力をしています。万が一、提供した製品やサービスによって事故やトラブルが生じた場合には、その情報を速やかにお客様に伝え、迅速かつ適切な方法で被害の拡大を最小限に抑えます。また、再発防止のため、徹底的に原因を究明する体制づくりを進めています。

### ▶ 従業員とのコミュニケーション

ノリタケカンパニーは、ノリタケグループ従業員への会社方針の周知や教育のため、ノリタケグループ社内報「魁」を年12回、グローバル社内報「SAKIGAKE」を年4回発行しています。そのほかにも、本報告書「ノリタケコーポレートレポート」を年1回配布しています。

### 社会貢献活動



### ▶ ノリタケの森

ノリタケカンパニー本社敷地の一部を「ノリタケの森」として開放しています。約34,000m<sup>2</sup>、6,000本以上の樹木が植樹されたこの森は、地域の皆さまへの感謝の気持ちと、環境保護への思いを込めて、創業の地に開設した複合施設です。産業観光施設として、また、都市の中の憩いの場として親しまれ、2001年の開園以来、多数の皆様にご来園いただいています。

また、大規模災害の発生時には、帰宅困難者の一時避難場所となる協定を名古屋市と結んでおり、地域の安心の一端を担っています。



ノリタケの森「グリーンカーテン」

### ▶ 留学生の支援

海外からの留学生に対する支援として、(財)留学生支援協力推進協会の「社員寮への留学生受け入れプログラム」に参加し、愛知県の大学や大学院に通う留学生に宿舍を提供しています。留学生にとっては経済的な負担が少なく、また、社員寮に住む従業員にとっても海外の方々との交流の機会として役立っています。

### ▶ ノリタケスリランカでの地域貢献

ノリタケカンパニーは1972年、スリランカに食器の製造会社としてノリタケスリランカを設立しました。それ以来、同社では、病院や学校などへの寄付や環境活動など、様々な形で地域との交流を続けています。

2020年度は、NGOエンタープライズアジアの第6回国際CSR&サステナビリティサミット2020で、19カ国600を超える企業の中から緑化推進部門のAsia Responsible Enterprise Awardを受賞しました。これは、ノリタケスリランカの長年の植樹などの活動が高く評価されたものです。



ノリタケスリランカの植樹



国際CSR&サステナビリティサミット受賞式



ノリタケの森 (ヒオトープ)

## 環境との調和

Harmony with the environment

ノリタケグループは、“持続可能な社会の実現”を目指すため、国内主要事業所すべてで国際規格ISO14001の認証を取得し、製品の環境配慮対策や地球温暖化対策など環境活動を推進しています。特に地球温暖化対策では、再生可能エネルギーの活用が温室効果ガスの削減に大きな効果があると考え、ノリタケの森をはじめとした国内各事業所に太陽光発電設備を導入しています。

13.環境との調和(P44～52)の報告内容は、以下グループ会社のデータから作成しています。

- ノリタケカンパニーリミテド
- ノリタケコーテッドアプレシブ
- ゼンノリタケ ●広島研磨工業
- 共立マテリアル ●キヨリックス三重
- ノリタケ伊勢電子 ●ノリタケTCF
- ノリタケの森 ●ノリタケリサイクルセンター
- ノリタケSCGプラスター ●ノリタケインドネシア
- ノリタケ台北 ●ノリタケスリランカ



ノリタケの森

## 環境行動方針



### 環境方針

ノリタケグループは、創業精神である“良品・輸出・共栄”の理念のもとにものづくりを行う企業として、地球環境の保全を重要な経営課題の一つと位置づけ、事業活動を通じて「持続可能な社会」の実現に貢献していきます。

- ① 環境に配慮した製品・サービスの開発・提供に努めます。
- ② 事業活動のすべてのプロセスで環境負荷の低減に努めます。特に、CO<sub>2</sub>発生量の抑制、省資源、廃棄物の削減とリサイクルの推進について定めた目標の達成と、有害物質の適正な管理に努めます。

- ③ グローバルな視点での環境マネジメントシステムを構築し、環境負荷の継続的な改善に努めます。
- ④ 環境に関する法令、条例、その他要求事項を遵守します。
- ⑤ 環境活動に関する情報開示とステークホルダーとのコミュニケーション活動の充実を図ります。

### 目指す姿

自主的な環境保護活動をノリタケグループ一体となって推進し、事業活動において発生する環境負荷や環境リスクの低減に積極的に取り組み、地球環境保護への貢献を目指します。また、環境保護と事業の利益創出を両立させた環境経営を行うことで、ステークホルダーとの共栄を図ります。



太陽光発電設備

### 第11次中期3か年環境行動計画の取り組み

2019年度から始まった第11次中期3か年環境行動計画では、環境に配慮した事業活動を目指し、事業活動と環境活動の一体化を推進しています。地球温暖化対策や資源循環活動においては、ものづくり強化活動と連携した「ムリ・ムラ・ムダ」を取り除くことによる使用エネルギー削減や原材料の変更、不良品削減に組み込み、温室効果ガスや埋立廃棄物等の環境負荷低減に努めています。また、環境に配慮した製品の開発と拡販を進めています。

3か年計画の2年目となる2020年度は、温室効果ガス排出量削減の取り組みに遅れがありましたが、その他の取り組みにおいては概ね計画通り推進することができました。最終年度となる2021年度も引き続き第11次中期3か年計画環境行動計画を推進し、事業活動と環境活動が一体となった環境経営体制の構築を目指します。

## 第11次中期3カ年環境行動計画 (2019年度～2021年度の計画および2020年度結果)

活動項目		2020年度		評価
		計画	実績	
環境管理体制	ESGへの取り組み	グループ経営体制に基づく環境経営の実現	グループ経営体制に基づく環境経営の実現	○
	海外工場の環境活動	海外事業所の活動計画設定	海外事業所毎の活動計画策定	○
温暖化対策	【国内】 温室効果ガス排出量の削減	生産高原単位： 前年度比1%以上削減	生産高原単位： 前年度比5%増加	×
	【グローバル】 温室効果ガス排出量の削減	生産高原単位： 前年度比2%以上削減	生産高原単位： 前年度比1%増加	×
資源循環対策	【国内】 埋立廃棄物排出量の削減	生産高原単位： 前年度比4%以上削減 リサイクル率：85%以上継続	生産高原単位： 前年度比20%削減 リサイクル率88%	○
	【グローバル】 不要物排出量の削減	生産高原単位： 前年度比3%以上削減	生産高原単位： 前年度比2%削減	△
汚染対策	使用禁止物質への対応	特定水銀、 特定フロン使用機器の削減	特定水銀、 特定フロン使用機器の削減	○
	PRTR化学物質管理 化学物質規制対応	PRTR法対象物質の使用量削減 化学物質規制の継続監視	PRTR対象物質の使用量削減 化学物質規制の継続監視	○
製品対策	環境配慮製品	売上高比率：8.0%	売上高比率：10.9%	○
	グリーン調達	グリーン調達ガイドラインの継続運用	グリーン調達ガイドラインの継続運用	○
環境 コミュニケーション	環境教育の実施	環境教育の継続と拡充	環境教育の継続と拡充	○
	ステークホルダーへ情報発信	統合型報告書の継続発行	統合型報告書の継続発行	○

活動項目		2021年度計画
環境管理体制	ESGへの取り組み	グループ経営体制に基づく環境経営の実現
	海外工場の環境活動	海外事業所の活動推進
温暖化対策	【国内】 温室効果ガス排出量の削減	生産高原単位：前年度比1%以上削減
	【グローバル】 温室効果ガス排出量の削減	生産高原単位：前年度比2%以上削減
資源循環対策	【国内】 埋立廃棄物排出量の削減	生産高原単位：前年度比4%以上削減 リサイクル率：85%以上継続
	【グローバル】 不要物排出量の削減	生産高原単位：前年度比3%以上削減
汚染対策	使用禁止物質への対応	特定水銀、特定フロン使用機器の削減
	PRTR化学物質管理 化学物質規制対応	PRTR対象物質の使用量削減 化学物質規制の継続監視
製品対策	環境配慮製品	売上高比率：11.0%
	グリーン調達	グリーン調達ガイドラインの継続運用
環境 コミュニケーション	環境教育の実施	環境教育の継続と拡充
	ステークホルダーへの情報発信	統合型報告書の継続発行

## マネジメントシステム

### ▶ 環境マネジメントシステムの組織体制

社長を環境保護統括者とした環境保護推進体制を構築しています。

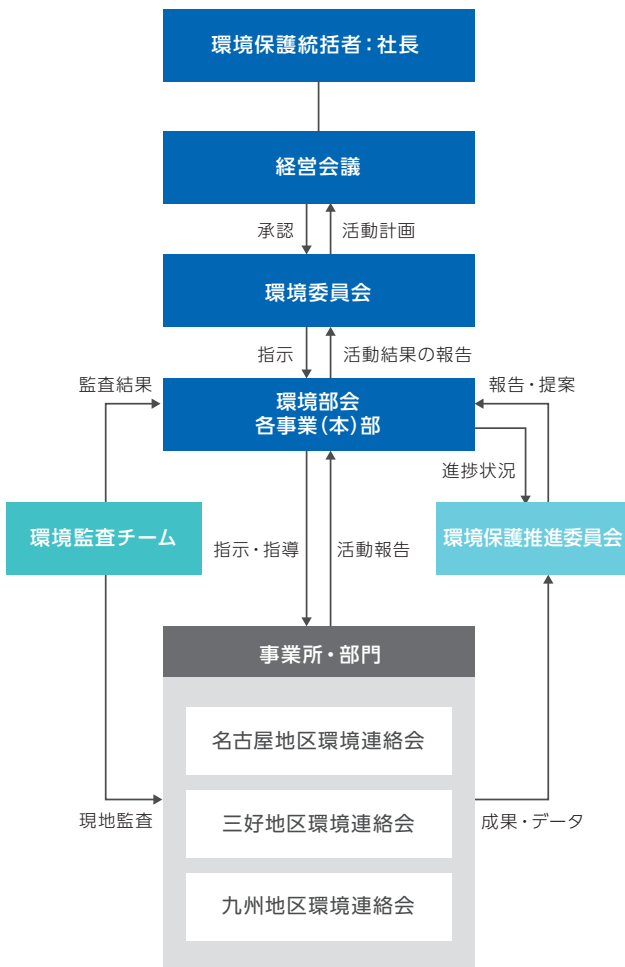
社長を委員長、各事業担当責任者を委員とする「環境委員会」では、活動結果に基づいて活動計画を審議し、経営会議で環境保護推進活動の統一的な指針を承認します。

事業ごとの環境保護活動は、各事業本部または事業部に事業担当責任者を部会長とする「環境部会」を設け、事業活動に沿った取り組みを企画するとともに進捗を管理しています。

また、環境保護活動の企画や進捗管理、活動結果の評価を行うため、定期的に「環境保護推進委員会」を開催しています。

また、地域ごとに連携して環境マネジメントシステムを運用するため、「環境連絡会」を各地で開催しています。

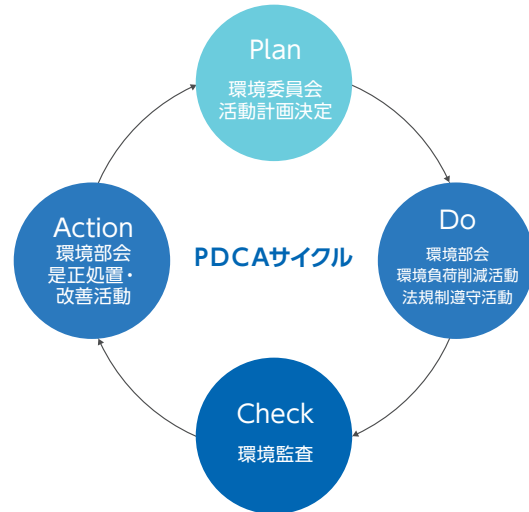
#### ■ 環境マネジメントの組織・体制



### ▶ 環境マネジメントシステムの運用

環境経営を適切に実施するための仕組みとして、国際規格ISO14001に基づいた環境マネジメントシステムを構築し、環境保護活動を継続的に推進しています。ISO14001は国内すべての生産事業所で、第三者機関による認証を取得しています。

#### ■ PDCAサイクル



### ISO14001認証取得事業所 (2021年3月取得状況)

#### ノリタケカンパニーリミテド (1997年取得 JQA-E-90071)

- ノリタケカンパニーリミテド  
本社・三好事業所・神守工場・小牧工場・港工場・松阪工場・夜須工場・久留米工場・伊万里工場
- ゼンノリタケ 本社
- ノリタケ伊勢電子  
大宮事業所・大内山事業所
- 広島研磨工業
- ノリタケコーテッドアブレーション  
本社・能登工場
- ノリタケリサイクルセンター
- ノリタケTCF
- ノリタケの森

#### 共立マテリアル (2001年取得 JSAE393)

- 共立マテリアル  
本社・本社工場
- キヨリックス三重  
三重工場

以上の他、海外事業所においても、国内同様に環境保護活動を推進するため、環境マネジメントシステムの構築を進めています。法令など各国の地域性を考慮し、環境体制の構築を図ります。

### ▶ 2020年度環境監査の結果

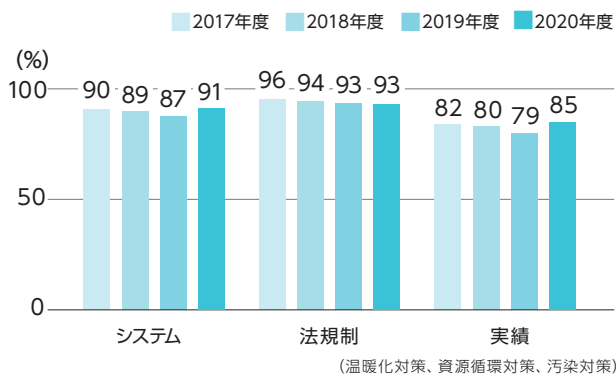
環境保護活動を適正に推進するため、毎年、環境保護推進委員会による環境監査を実施しています。

環境監査では、すべての工場に対して、環境活動の実施状況を調査し、その成果を評価しています。特に環境汚染を未然に予防するため、生産工程や施設などの現地確認を重点的



に実施しています。また、環境監査を実施することで、環境負荷低減活動の問題や課題の解決を図るとともに、システム全体の改善にも役立っています。

### ■ 監査項目ごとの平均得点率



2020年度の環境監査では、環境マネジメントシステム、法規制管理と第11次中期3ヵ年環境行動計画に対する環境負荷削減活動の実績を評価しました。

その結果、環境マネジメントシステムの手順に基づき、関係法規制の管理及び環境汚染対策が適切に運用されていることが確認できました。しかし、環境活動の取り組みと事業計画との連携が不足していることから、2021年度は事業計画と連携したより実効性の高い施策を推進します。



環境内部監査

### ▶ 環境コミュニケーション

環境保護活動を全社で推進するためには、経営者から新入社員まで一人ひとりが環境問題を正しく認識し、環境保護への意識を向上させることが重要です。そのため、階層別に環境教育を実施しているほか、環境への取り組みを周知するため、社内報を通じて環境活動に関する情報を定期的に発信しています。また、法規制など専門的な知識が必要な人材を対象に専門教育を開催しています。

また、多くの皆さまに、ノリタケグループの環境への考え方を理解していただくため、本報告書やホームページで情報発信しています。



社内環境教育

### ▶ 法規制遵守・苦情

#### ＜ 法規制遵守・苦情 ＞

2020年度は、環境に関わる法規制基準値の逸脱および苦情はありませんでした。また、環境に関して監督官庁などから罰金刑以上の処罰および訴訟の提起などはありませんでした。

#### ＜ PCB含有機器 ＞

PCB含有機器に対しては、厳重な保管管理を行い、処理計画に基づき順次適正な処理を進めています。

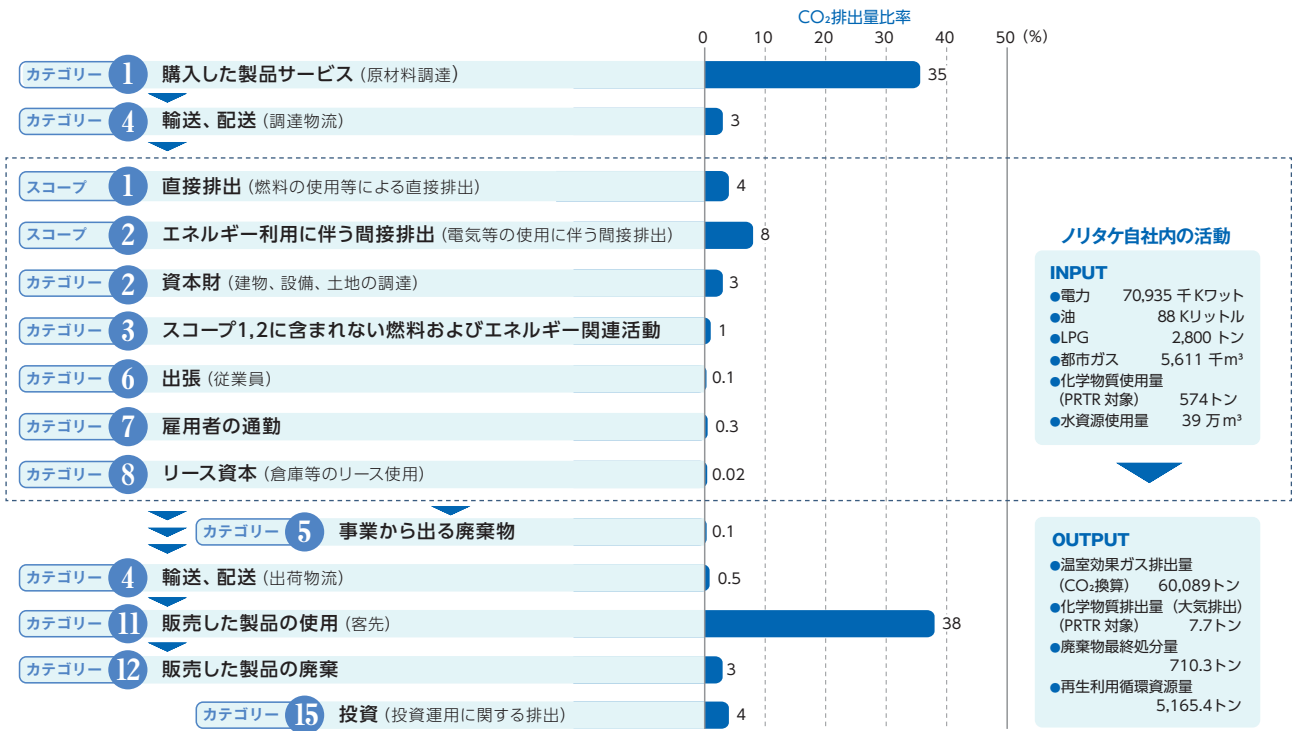
## 環境負荷の低減

### ▶ 環境負荷の全体像(スコープ3)

原料調達から製品使用後の廃棄処分までの製品ライフサイクル全体に関わる環境負荷の全体像を把握することで、より効果的な環境負荷削減に取り組んでいます。

ノリタケでは、国際的な基準であるスコープ3に基づく温室効果ガス排出量を算定し、活動指標として活用しています。

※算定方法について  
・環境省・経済産業省の「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン Ver2.0」に準拠し算定しました。  
・スコープ3の15カテゴリーのうち、カテゴリー9、10、13、14については非該当のため算定から除外しました。



### ▶ 汚染対策

#### ◀ 汚染対策活動 ▶

化学物質による環境汚染リスクを減らすためには、環境に悪影響のある物質の使用を可能な限り低減するとともに適正な保管と取り扱いで飛散や漏洩を予防することが重要です。

第11次中期3カ年環境行動計画では、有害な化学物質による環境への影響の低減を目指し、化学物質の管理を強化するとともに、使用される化学物質の削減を進めています。

#### ◀ 化学物質管理 ▶

ノリタケグループ全社において環境関連法に対応した化学物質管理を実施しています。化学物質管理は、有害な化学物質の新規使用を抑制するための審査、承認のルールと化学物質の使用量・排出移動量を把握する二つで構成されています。これによって、化学物質の使用状況を「見える化」し、有害物質の使用量と排出量削減に努めています。

また、有害な化学物質の保管、使用に対して、関連施設の構造基準や点検基準を独自に定めた「化学物質汚染防止管理標準」を発行し運用しており、化学物質の飛散、漏洩の未然防止に努めています。

## ▶ 温暖化対策

### ◀ 温暖化対策活動 ▶

ノリタケグループは、温暖化の原因となる温室効果ガスの削減活動に取り組んでいます。第11次中期3カ年環境行動計画では、生産量あたりの温室効果ガスを前年度から1%以上削減することを目指して活動しています。温室効果ガスを削減するため、生産性向上や省エネルギー設備の導入などによるエネルギー使用量の削減を積極的に進めています。

また、再生可能エネルギーの利用拡大による地球温暖化対策として、事業所の敷地を有効利用した太陽光発電設備を国内6か所で稼働しており、年間1,500トン以上のCO<sub>2</sub>削減に貢献しています。



太陽光発電施設

### ◀ 温暖化対策部会の取り組み ▶

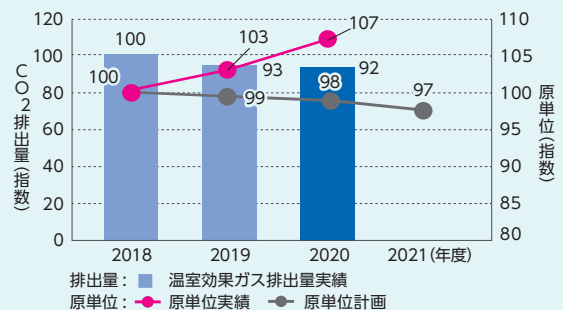
温暖化対策に必要な情報を共有し、全社で統一した方針で活動に取り組むため「エネルギー管理企画推進者」と主力工場の「エネルギー管理責任者」が参加する温暖化対策専門部会を設置しています。この温暖化対策専門部会では、全社の温室効果ガス削減活動の進捗状況を確認するとともに温暖化対策の進め方を検討しています。

また、グループ内の先進的な取り組みや有効な手段を水平展開するため、主力工場が中心となって取り組み事例の現地見学会や事例集の作成など、全社一体となった活動を進めています。

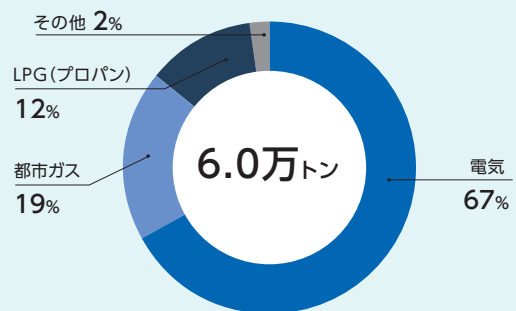
## 温室効果ガス排出量実績

第11次中期3カ年環境行動計画の2年目となる2020年度は、ものづくり強化活動と連携した生産性向上や品質向上などの取り組みを継続することで、CO<sub>2</sub>排出量を約1%削減することができました。しかし、生産変動に対して、固定エネルギーの削減が不足しており、生産量あたりのCO<sub>2</sub>排出量は計画値である前年度比1%を達成することができませんでした。

### ■ 国内温室効果ガス排出量実績

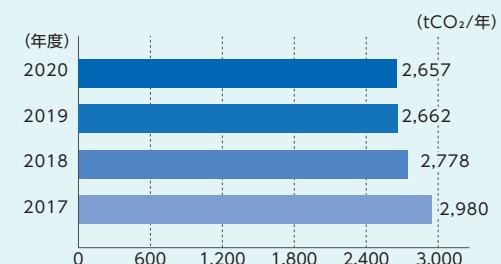


### ■ エネルギー種類別CO<sub>2</sub>排出量比率



また、ノリタケカンパニーリミテドでは、効率的な物流を目指すため、継続的に物流輸送量を把握しています。2020年度は、1,493万トンキロでCO<sub>2</sub>排出量は2,657トンとなりました。

### ■ 物流輸送によるCO<sub>2</sub>排出量



▶ 資源循環対策

◀ 資源循環対策活動 ▶

限りある資源を有効利用するためには、事業活動における不要物の発生を極力減らすことが重要と考え、ノリタケグループでは、ものづくり強化活動と連携した品質改善などで不要物削減に取り組んでいます。

第11次中期3カ年環境行動計画では、不要物の再資源化による資源循環を促進するため、生産量あたりの最終埋立処分量を前年度から2%以上削減することを目指して活動しています。また、主な取り組みとして、これまで埋立処分されていた廃棄物の再資源化を進めるため、リサイクル率85%以上を目指しています。

◀ ノリタケリサイクルセンターの取り組み ▶

ノリタケの主力事業である工業用砥石は、消耗品であるため、使用後に産業廃棄物として埋立処分されていることから、資源を有効利用する上で大きな課題となっていました。

ノリタケが販売した工業用砥石を再資源化するため、ノリタケリサイクルセンターでは年間約500トンの使用済みビトリファイド砥石を回収しています。

回収した砥石は、粉碎し分級した後、研磨剤や耐火物原料などの製品として新たに生まれ変わります。

使用済み砥石を有効利用できるよう用途開発にも積極的に取り組んでいます。

■ 使用済み工業用砥石のリサイクル工程

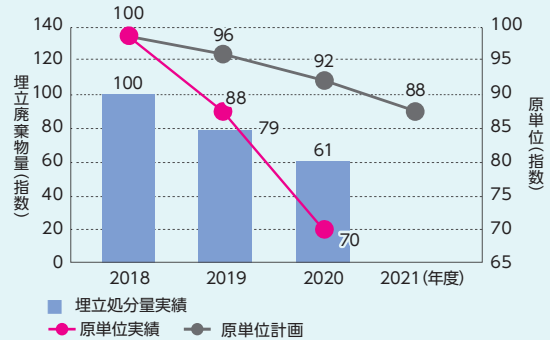


廃棄物排出量実績

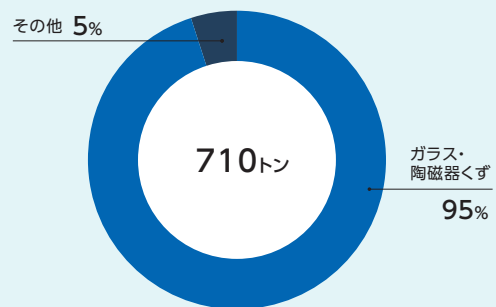
第11次中期3カ年環境行動計画の2年目となる2020年度は、不良率の低減による不要物の排出抑制と処分方法の見直しによる再資源化などを継続的に進め、埋立処分量は約24%削減することができました。生産量あたりの埋立処分量も前年度比20%削減することができ、年度計画を達成しました。

また、再資源化を促進することにより、発生した不要物の88%をリサイクル処理することができました。

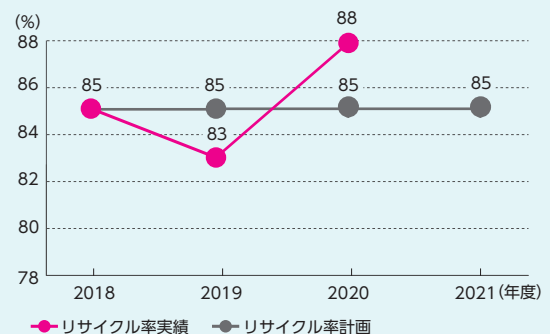
■ 国内埋立処分量実績



■ 廃棄物種類別埋立処分量比率



■ リサイクル率の推移



## 生物多様性の取り組み



ノリタケグループが目指す「持続可能な社会」を実現するため、自然と生態系の保全を目指した生物多様性への取り組みを進めています。事業所敷地内の緑化を進めており、本社に隣接する「ノリタケの森」では、野鳥や昆虫などの生き物が住みやすい環境を整えています。



ノリタケの森（ビオトープ）

## 水資源保全の取り組み



大切な水資源を保全するために、ノリタケグループでは、生産工程からの排水を適切に管理し、河川などの汚染防止に努めています。廃液が多く発生する工場では、工程からの排水をすべて回収し、河川などへの排水をなくすとともに、洗浄水など一部の工程排水を循環利用しています。



排水処理施設

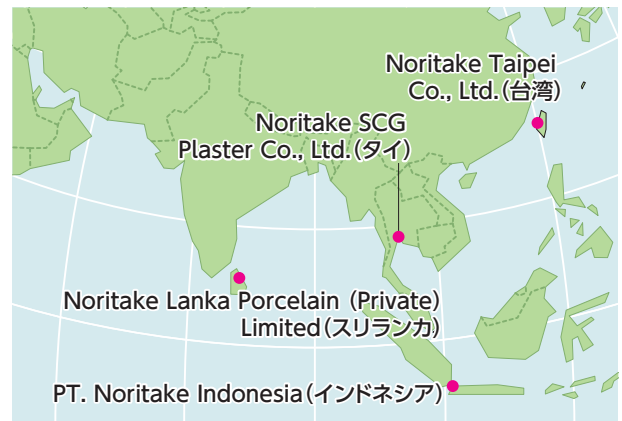


廃液回収循環施設

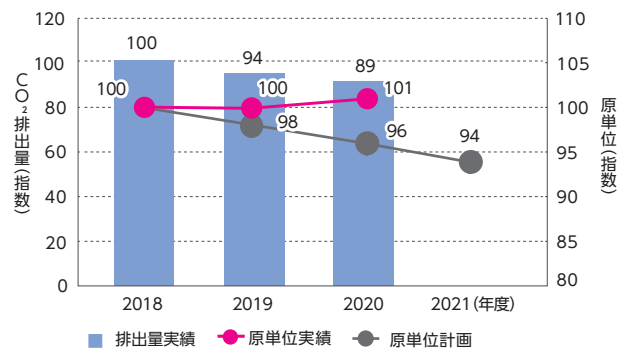
## 海外拠点の取り組み



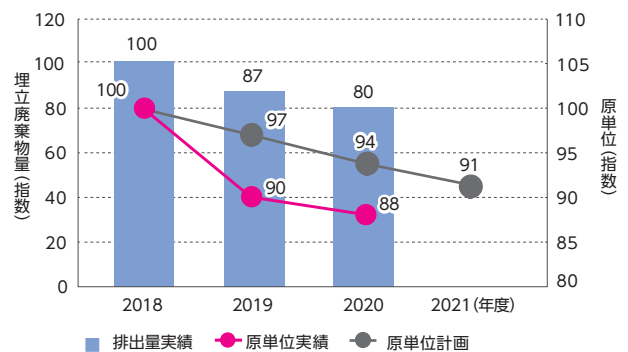
ノリタケグループでは、海外拠点の拡大に合わせ、海外生産拠点における環境負荷低減に取り組んでいます。第11次中期3ヵ年環境行動計画では、温室効果ガス排出量と不要物排出量に対して主要な海外生産拠点を含めたグローバル目標を設定し、活動を推進しています。



### ■ 温室効果ガス排出量の推移(グローバル)



### ■ 不要物排出量の推移(グローバル)



## 主な連結経営指標の推移

年度	2016	2017	2018	2019	2020
売上高(百万円)	108,808	117,928	125,802	120,611	107,000
売上原価(百万円)	79,537	86,484	91,852	90,045	80,327
売上総利益(百万円)	29,271	31,443	33,949	30,566	26,673
売上高総利益率(%)	26.9	26.7	27.0	25.3	24.9
販売費および一般管理費(百万円)	26,151	26,346	26,465	26,358	24,115
営業利益(百万円)	3,119	5,097	7,484	4,207	2,557
営業利益率(%)	2.9	4.3	5.9	3.5	2.4
経常利益(百万円)	4,861	6,992	9,764	6,312	4,480
経常利益率(%)	4.5	5.9	7.8	5.2	4.2
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	4,107	13,432	9,707	3,415	2,806
当期純利益率(%)	3.8	11.4	7.7	2.8	2.6
設備投資額(百万円)	4,478	4,352	5,299	8,965	4,553
減価償却費(百万円)	4,026	4,030	4,057	4,442	4,784
研究開発費(百万円)	2,443	2,491	2,554	2,571	2,294
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	9,128	9,684	8,237	8,232	5,903
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	-2,546	8,468	-2,408	-7,473	-7,601
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	-5,974	-11,056	-10,348	-2,210	1,597
現金および現金同等物の期末残高(百万円)	8,910	16,087	11,395	9,939	9,741
総資産(百万円)	142,157	156,283	151,773	145,923	154,905
有利子負債(百万円)	23,177	13,221	4,875	5,335	8,180
自己資本(百万円)	83,928	99,608	103,747	100,668	110,926
純資産額(百万円)	87,125	103,026	107,349	103,757	113,988
一株当たり当期純利益(円)	286.12	935.57	675.77	237.22	194.54
年間配当金(円)	60.00	70.00	90.00	100.00	60.00
自己資本利益率(ROE)(%)	5.1	14.6	9.5	3.3	2.7
自己資本比率(%)	59.0	63.7	68.4	69.0	71.6
総資本回転率(%)	76.5	75.5	82.9	82.7	69.1
株価収益率(PER)(倍)	10.0	4.9	7.8	14.5	18.2
株価純資産倍率(PBR)(倍)	76.50	0.66	0.73	0.49	0.46
期末株価(円)	2,851	4,610	5,300	3,440	3,550
期末従業員数(人)	5,097	5,012	5,091	5,120	5,029

2016年10月1日付で普通株式10株を1株に株式併合しております。2016年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当期純利益を算定しております。

「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、2018年度以前の主要な経営指標等については、当該会計基準等を選べて適用した後の指標等となっております。

## 15. 会社概要

社名	株式会社ノリタケカンパニーリミテド (NORITAKE CO., LIMITED)
創立	1904(明治37)年1月1日
本社所在地	愛知県名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
ホームページ	<a href="https://www.noritake.co.jp/">https://www.noritake.co.jp/</a>
代表者	代表取締役社長 加藤 博
資本金	156億32百万円
営業品目	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 工業機材事業 研削研磨工具など</li><li>■ セラミック・マテリアル事業 電子部材、セラミック原料、石膏製品、蛍光表示管など</li><li>■ エンジニアリング事業 焼成炉、濾過装置、混合装置、切断機など</li><li>■ 食器事業 陶磁器製品など</li></ul>

(2021.3.31現在)

### 子会社

※非連結子会社

日本レヂボン株式会社	NORITAKE CO., INC,
株式会社菱和	NORITAKE SHANGHAI TRADING CO., LTD.
株式会社ノリタケコーテッドアブレーション	NORITAKE EUROPA GMBH
株式会社ゼンノリタケ	NORITAKE ABRASIVES (SUZHOU) CO., LTD.
日本フレキ産業株式会社	NORITAKE SA (THAILAND) CO., LTD.
広島研磨工業株式会社	DIA RESIBON (THAILAND) CO., LTD.
共立マテリアル株式会社	NORITAKE SCG PLASTER CO., LTD.
株式会社キヨリックス三重	PT. NORITAKE INDONESIA
ノリタケ伊勢電子株式会社	ITRON (U.K.) LIMITED
株式会社ノリタケTCF	NORITAKE TAIPEI CO., LTD.
株式会社ノリタケの森	NORITAKE LANKA PORCELAIN (PVT) LIMITED
株式会社ノリタケリサイクルセンター*	NORITAKE (AUSTRALIA) PTY. LTD.
	TAIWAN KCM CO., LTD*

### 持分法適用関連会社

東濃研磨株式会社	SIAM COATED ABRASIVE CO., LTD.
クラレノリタケデンタル株式会社	
株式会社大倉陶園	

株式会社  
**ノリタケカンパニーリミテド**

〒451-8501  
愛知県名古屋市西区則武新町三丁目1番36号  
<https://www.noritake.co.jp/>

お問い合わせ先  
**総務部 広報課**  
TEL 052・561・7110 FAX 052・561・9721